



日本大学 大学院 総合社会情報研究科

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5 (日本大学通信教育部3号館)

入学に関する問い合わせ先: 日本大学通信教育部入学課

[TEL] 03-5275-8933 [FAX] 03-5275-8877 [E-mail] gssc.jimu@nihon-u.ac.jp

<https://atlantic2.gssc.nihon-u.ac.jp>

受付時間: 10:00~18:00 (月~金) 9:00~13:00 (土)

いつでも、どこでも
社会人に優しい大学院

日本大学 大学院 総合社会情報研究科

〈通信制大学院〉



2020

博士前期課程
(2年制)

国際情報専攻
文化情報専攻
人間科学専攻



いつでも，どこでも 社会人に優しい大学院

実社会における自分自身のグレードアップのために学ぼうとしている方に自己実現の場を提供。年齢・場所などの制約を越え，多彩な学習方法を利用して勉学の意欲を持ち続ける社会人の方に「いつでも，どこでも」学べる環境を整え，日本大学は皆さんの入学をお待ちしています。



Contents

「日本大学」が選ばれる 7つのポイント	3	【専攻・教員紹介】	3つのポリシー	46
専攻・コース一覧	5	国際情報専攻	学生データ	49
入学から修了までの流れ	7	専任教員紹介 特別研究指導テーマ紹介	年齢層別学生数 職業別学生数 入試状況 地域別学生数 総合社会情報研究科修了者数	
学費について	9	文化情報専攻		
長期履修学生制度について	9	専任教員紹介 特別研究指導テーマ紹介		
各種奨学金について	10	人間科学専攻		
		専任教員紹介 特別研究指導テーマ紹介		

学 位

国際情報専攻	修士（国際情報）	Master of International Political Science and Economics
文化情報専攻	修士（文化情報）	Master of Culture and Communication Studies
人間科学専攻	修士（人間科学）	Master of Human Science

創設20年で修了生1,266名の実績。

「日本大学」が選ばれる

7つのポイント

1

働きながら学べる「在宅学修」がベース

教材を読みリポートを提出する「在宅学修」が学びの基本。空き時間をコントロールして学べます。

2

「オンライン」でも「対面」でも。 学生の都合に応じた個別指導を実施

困ったことをそのままにして欲しくないから、「直接話したい」「メールで解決したい」など都合に応じて教員への相談手段を選べます。

3

学生一人ひとりの生活スタイルを 指導教員が把握し、配慮して対応

「徹底した個別指導」が強みの日本大学。いつでも、どこでも学生のニーズに応じて指導を行います。

4

スクーリングの必修は3日間のみ

在学中に必要なスクーリングの受講は1回、3日間のみ。
(博士前期課程・7月の3連休で実施)

5

アクセス便利な都心のキャンパス

キャンパスは、東京・市ヶ谷。予約を取って、直接指導が受けられます。

6

どこでも参加OK！30人同時参加が可能な 「サイバーゼミ」で充実した学び

オンライン上でゼミ生が集まる「サイバーゼミ」。情報交換、研究指導は、通信制でも盛んです。

7

学生同志のつながりが深まる。 ゼミ合宿(希望者のみ)なども実施

通信制大学院とはいえ、ゼミ合宿などで、直接交流を深められる機会もあります。

専攻・コース一覧

博士前期課程（2年制）

専攻		コース	研究内容
国際情報専攻 [学位：修士(国際情報)]	P.11	経営・経済コース	経営組織論, 経済法, 国際分業と経済開発, 競争戦略など, 経営や経済を幅広い視点から研究します。
		国際(関係)・政治コース	国際法, 中国の軍事戦略, 日本政治史の視点からより専門性の高い研究をします。
文化情報専攻 [学位：修士(文化情報)]	P.21	文化研究コース	文学・演劇・映像・メディアなど, さまざまな文化について研究を深めます(西南中国民族, 日本古代文学, 日本近現代文学, 比較文学など)。また, 翻訳の理論と実践, 多様な文化間の情報伝達や相互理解についても学べます。
		言語教育研究コース	言語学習・教育についての最新の理論を踏まえ, ICTを活用した言語指導・学習方法を学びます。研究領域は日本語教育学, 言語テスト, 英語教育学などがあります。
人間科学専攻 [学位：修士(人間科学)]	P.31	哲学コース	科学哲学, ロジカル・シンキングや現象学を中心とする現代哲学の, 主に20世紀以後の西洋現代哲学を研究します。人間の存在について十分な理解力を持った人材育成を目標としています。
		心理学コース	産業・組織心理学の視点から公共社会や企業などで不公正, 不公平感が及ぼす心理的影響や, 自己と対人関係といった社会心理学を研究します。生活などの場で起こる問題を解決できる人材を育成します。
		教育学コース	社会的に着目度の高い, 現代の教育課題に対応できる人材を育成する, 教育方法論, 教育思想, 教育心理学などを研究します。
		医療・安全学コース	人工知能や統計などの数理モデルを応用した安全学, ヒトの健康の向上に関して医療・福祉, 生命科学の分野を研究します。健康で安全な生活を実現するための科学的な知識を身につけ, 人々のQOLの向上を追究します。
		スポーツ科学コース	スポーツ運動学, スポーツ医学, スポーツ心理学, コーチングの視野からスポーツのより良いあり方を研究します。

博士後期課程（3年制）

総合社会情報専攻 [学位：博士(総合社会文化)]	国際情報分野	国際人としての知識・学問を身につける幅広い科目を設置。 国際経営・国際経済・国際地域研究の分野から総合的に研究します。
	文化情報分野	比較文学・日本文学・英米文学・文芸思想・言語学・コミュニケーション論・第二言語習得論などの領域を学際的, 超域的に研究します。
	人間科学分野	人間の存在についての根本問題あるいは現代的な問題を学際的な立場から探究します。 研究内容は心理学, 医療・健康, 教育及び哲学・宗教があります。

入学から修了までの流れ



在宅学修

在宅学修は基本となる学修形態です。科目ごとに、『基本教材』が指定されます。これらをよく読み、課題を研究し、レポートにまとめていきます。指導は、電子メールやインターネットによる双方向授業等の情報メディアを通して行います。



スクーリング学修

スクーリング学修は、一定の期間本学へ通学して直接指導を受けます。



特別研究(修士論文指導)

特別研究は小グループ単位で進めていきます。ゼミは“面接ゼミ”と、自宅からインターネットを利用して、相手の顔を見ながら音声でコミュニケーションをおこなう“サイバーゼミ”があります。

学修の様子



対面ゼミ

直接対面して行うゼミ。各学生の研究の進捗状況を報告し、方法論などについて議論します。



個別指導

必要に応じて、対面による個別指導も行います。



公開講座

年数回、生涯学習を目的として、一般の方を対象に実施しています。もちろん、学生も参加できます。

入学試験

	入学試験期日	事前相談	出願期間	合格発表	入学手続期間
第1期試験	2019年11月9日(土)	2019年6月3日(月)～10月18日(金)	2019年10月21日(月)～11月1日(金) (必着)	2019年11月18日(月) 午後3時	2019年11月18日(月)～11月29日(金)
第2期試験	2020年2月8日(土)	2019年6月3日(月)～2020年1月17日(金)	2020年1月20日(月)～1月31日(金) (必着)	2020年2月17日(月) 午後3時	2020年2月17日(月)～2月28日(金)

※出願前に事前相談が必要となります。

くわしくはホームページの入学試験要項(募集案内)をご覧ください。

入学試験科目

- ① 英語 (大学卒業後3年以上の者、または25歳以上で職歴・業務歴3年以上の者は免除可能)
(英和辞典使用可、電子辞書は使用不可)
- ② 小論文
- ③ 口述試問

学費について

単位：円

項目	2020年度（1年次）		2021年度
	入学手続時の納入金額	2回目（9月）	2年次の納入金額
入学金	①200,000	—	—
授業料	322,500	322,500	②645,000
施設設備資金	75,000	75,000	②150,000
小計	597,500	397,500	795,000
校友会費（準会員）	10,000	—	10,000
校友会費	—	—	10,000
年間合計	1,005,000		815,000

① 本学の大学卒業生（本大学院修了者を含む）の入学金は免除。 ② 2年次以降の納入金は2回（4月・9月）に分納。
※ 授業料・施設設備資金には、スクーリング受講費等を含みます。

長期履修学生制度について

1 長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、学修時間の確保が困難である学生のために、長期履修学生制度を導入しました。これにより、個人の事情に応じて学修計画に合わせた履修が可能となります。

2 対象者

職業を有し、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することを希望する学生を対象とします。

3 修業年限

標準2年の修業年限を3年とします。

なお、在籍期間は4年を超えることはできません。

4 学費

長期履修学生として認められた場合の授業料等の納付については、標準修業年限で納付する総額を上記修業年限で納付することとする。

《長期履修学生授業料等納付金 博士前期課程》

単位：円

在学年数	項目	1年目		2年目		3年目		合計
3年	学期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	授業料	322,500	107,500	215,000	215,000	215,000	215,000	1,290,000
	施設設備資金	75,000	25,000	50,000	50,000	50,000	50,000	300,000
	校友会費（準会員）	10,000	—	10,000	—	10,000	—	30,000
	校友会費（正会員）	—	—	—	—	—	10,000	10,000
	小計	407,500	132,500	275,000	265,000	275,000	275,000	1,630,000
	入学金	200,000	—	—	—	—	—	200,000
	合計	607,500	132,500	275,000	265,000	275,000	275,000	1,830,000

※ 本学出身者は、入学金が免除となります。

5 履修上限

1年間に16単位まで（特別研究を含めない）

6 特別研究

1年次～3年次に各2単位相当分

7 論文題目の届出

3年次の6月末日

8 論文の提出

面接試問終了後

9 奨学金

3年次生対象の奨学金（※古田奨学金， ロバート・F・ケネディ 奨学金， 坂東奨学金）が利用できます。

10 申請要領

- （1）提出資料 ① 長期履修学生制度申請書（原本）※捺印必須
② 在職証明書（原本）
（2）提出先 日本大学通信教育部入学課
（3）提出期間 開講式から起算して概ね10日後を締切日とする。
（4）履修計画 入学時（開講式）に指導教員と履修計画含めて相談すること

11 長期履修学生の取り消し

長期履修学生として許可された者から、相当の理由を記載した願い出があった場合には、入学初年度2月末日までに取り消しを願い出し、3月開催の本研究科分科委員会の議を経て、長期履修学生を1度だけ取り消すことができる。取り消しが認められた場合は2年次に2年目・3年目の授業料等を納付することとする。

各種奨学金について

下記奨学金が利用できます。

- 日本大学古田奨学金
- 日本大学ロバート・F・ケネディ 奨学金
- 日本大学大学院総合社会情報研究科坂東奨学金
- 日本学生支援機構奨学金（貸与）
- その他学外奨学金

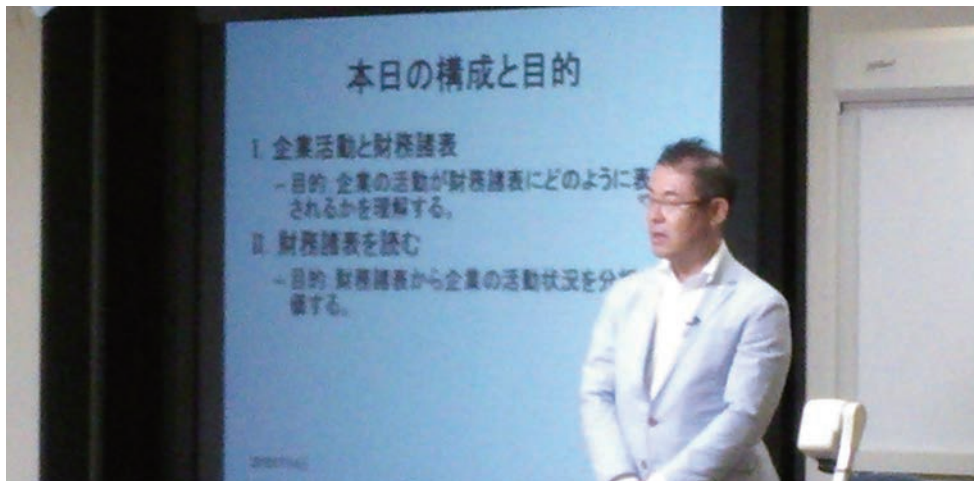
グローバルな視野と鋭敏な感覚を持ち、
指導的かつ先端的な立場で
現代的課題に取り組む人材を育成する

国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で、指導的かつ先端的な役割を担い、国際化・グローバル化の現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を持つ人材を育成します。

実務家においては、それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力、及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力の修得を、研究者にあっては、学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し、論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力の習得を、それぞれ目標としています。



国際情報ゼミ風景



丸森准教授の公開講座風景

2つのコース

経営・経済コース

経営・経済コースでは、主に経営や経済に関するテーマの講義が設置されています。具体的には、経済理論及び経済政策の科目群、グローバルな経営を扱う科目群、ファミリービジネスを扱う科目群から構成され、国際的なビジネス領域で自主性を重んじ指導的な役割を担う能力の獲得を目指しています。

国際（関係）・政治コース

国際（関係）・政治コースでは、戦略情報及び危機管理を扱う科目群、現代政治や国際関係を扱う科目群、から構成され、環境、安全保障、開発、政治、ジェンダーなどのグローバルな課題を国際市民の観点から研究し対応する能力の獲得を目指しています。

授業科目一覧

国際情報論特講（4単位）・特別研究（6単位）が必修科目になります。そのほか、各院生の研究分野に関連する科目（各4単位）5科目20単位を選択し修得します。

各関連科目は主に下記の2コースになりますが、各院生の研究分野により自由に選択できます。

必修科目	・国際情報論特講 ・特別研究 ・学位論文		
経営・経済コース	・経済理論特講	・フィナンシャル・アカウンティング論特講	・ビジネス法特講
	・国際経済政策論特講	・マネジメント・アカウンティング論特講	・ファミリービジネス論特講
	・近代日本社会変動論特講	・マーケティング論特講	・ファミリーガバナンス論特講
	・グローバル経営戦略論特講	・人材マネジメント論特講	・事業創造論特講
	・現代ファイナンス論特講	・多国籍企業論特講	・事業承継論特講
	・アカウンティング論特講	・流通ビジネス論特講	・中小企業論特講
国際（関係）・政治コース	・戦略情報論特講	・国際協力論特講	・国際メディア論特講
	・危機管理論特講	・国際関係論特講	・現代中国政治論特講
	・組織倫理論特講	・行政論特講	・日中比較社会論特講
	・現代政治学特講	・日本政治史論特講	・環境生態論特講
	・国際法特講	・アフリカ開発論特講	・市民社会論特講
	・国際政治論特講	・グローバルヘルス論特講	
専攻共通科目	・調査分析特講	・統計基礎Ⅰ	
	・ゲーム理論	・統計基礎Ⅱ	

※都合により開講科目を変更する場合があります。

修了生の声



木下 義文 会社員（国際情報専攻修了, 博士後期課程修了）

社会人としての実務経験を学問的に研究し実務に活かしていきたい、あるいは理論的学問の世界で実務経験を活かした研究・教育活動を行っていきたい、そう考える社会人は少なくないと思います。その実現のためには時間と資金が必要ですが、思い切って踏み込んでみませんか。ITを活用したサイバーゼミ、ゼミ合宿、スクーリング、オープン大学院、レポート課題取組みと修士論文提出、楽しくもあり辛くもある2年間は瞬間に過ぎて行きます。そして、修士論文という自分自身の研究成果と、学位が残ります。ご指導いただいた先生方、共に修士論文を書き上げた社会人の仲間達といった宝物も得ることができます。2年前とは違った自分と出会うことができるのです。それが当通信制大学院です。



吉川 幸 大学職員（国際情報専攻修了, 博士後期課程在学）

育児に出張に残業にとただでさえ忙しい日々。それでも大学院への挑戦を決めたのは、社会人としての20数年の蓄積を論文にまとめたいという思いからでした。何冊もの教材を読んでレポートを書き、修士論文も仕上げるためには時間のやりくりは大変です。突発的な仕事や病気で計画が狂って慌てた時期もありました。それでも、学びから多くを得ることができましたし、先生方との密なやり取りや、多彩なバックグラウンドを持つ仲間と集えるサイバーゼミ等、オンライン大学院の仕組みは出張の多い生活には便利でした。大学院で学んでいるという自覚は日常生活の新たな刺激となりました。多感な年齢の娘たちも母の背中から感じるものがあったようで、思い切って挑戦してよかったと実感しています。



経営・経済コース

加藤 孝治 教授

Kato, Koji

主な学歴

- 1988年 京都大学経済学部経済学科卒業（経済学）
2009年 日本大学大学院総合社会情報研究科国際情報専攻博士前期課程修了 修士（国際情報）
2012年 日本大学大学院総合社会情報研究科総合社会情報専攻博士後期課程修了 博士（総合社会文化）

主な職歴

- 1988年 株式会社日本興業銀行（現みずほフィナンシャルグループ）入社（2015年3月まで）
1995年 株式会社日本興業銀行 産業調査部（小売業界 調査担当）（2000年11月まで）
2000年 株式会社日本興業銀行 営業第八部（小売大企業営業担当）（2007年10月まで）
2007年 株式会社みずほコーポレート銀行 産業調査部次長（小売・食品業界など 調査担当）（2013年3月まで）
2010年 株式会社みずほ銀行産業調査部次長（自動車部品、電子部品業界及び再生エネルギーなど 調査担当）
2013年 三井物産株式会社食品事業本部に出向（2015年3月まで）
2015年 目白大学経営学部経営学科 教授（2019年3月まで）
2019年 日本大学大学院総合社会情報研究科 教授

学術論文

2018年「小売チェーンによる物流コスト削減の取り組みに係る一考察～トライアル社に見る調達物流改善の実態～」日本物流学会学会誌 No.26,
2018年「総合商社に期待される機能変化に関する考察―食品分野における事業展開の変化―」目白大学経営学研究, 第15号, 2018年"Japanese corporate governance structure review and 'the logic of lé" (共著) International Journal of Business and Globalisation, Vol.20 No.3, pp354-370, 2016年「地域に根付いた経営資源の活用による地方創生モデルに関する

考察―再春館製薬と霧島酒造が手掛ける地域活性化事例―」共著, 日本物流学会学会誌No.24, 87-94頁, 2013年『タイの洪水後に生じた自動車業界のサプライチェーンの変化について』共著, 日本物流学会学会誌No.21, 127～134頁, 2006年『小売業の国際調達ロジスティクス戦略』共著, 日本物流学会学会誌No.14, 173～180ページ（日本物流学会 学会賞 受賞）, 2006年『小売業のグローバル化と国際調達ネットワークの方向性』共著, 日本貿易学会年報 JAFT43号76～86ページ（日本貿易学会 学会賞 受賞）

指導・研究における特色, プロフィール

銀行在籍中に小売業界、食品業界に関係する業務（産業調査、営業）に携わった経験に基づく研究として、企業活動（戦略、組織）の研究のほか、小売業界に多いファミリービジネスに着目しています。論文指導、レポート指導においては、社会人としての経験に基づいた指導を行います。

担当科目

国際情報論特講、人材マネジメント論特講、特別研究



経営・経済コース

中村 良 教授

Nakamura, Ryo

主な学歴

- 1987年 日本大学法学部法律学科 卒業（法学士）
1990年 日本大学大学院法学研究科私法学専攻 修士課程 修了（法学修士）
1997年 大東文化大学大学院法学研究科法律学専攻 博士後期課程 単位取得退学

主な職歴

- 2003年 日本大学法学部 非常勤講師（2008年3月まで）
2005年 朝日大学法学部法学科 専任講師（2008年3月まで）
2007年 名古屋大学法学部 非常勤講師（2008年3月まで）
2008年 朝日大学法学部 准教授（2016年3月まで）
2009年 University of California Hastings College of The Law 客員研究員（2010年8月まで）
2011年 日本大学法学部 非常勤講師（現在に至る）
2012年 朝日大学大学院法学研究科 准教授（2016年3月まで）
2016年 日本大学危機管理学部 教授（現在に至る）
2017年 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

- 『景品・表示の法実務』（共著）（2014年）
『M&Aの法務・会計・税務』（共著）（2006年）

学術論文

「アメリカにおける独占的企業結合形態の変遷と会社法」『朝日大学法学部創立20周年記念論文集』（2007年12月）
「独占禁止法における課徴金と破産手続との関係に関する覚書」朝日法学論集第35号（2008年3月）

指導・研究における特色, プロフィール

企業の危機管理の視点からコーポレートガバナンス、コンプライアンスについて研究指導します。

担当科目

ビジネス法特講、特別研究

特別研究

①専門分野

経営組織論・経営戦略論・流通論・金融論・ファミリービジネス研究

②特別研究の研究領域

経営全般を対象とし、戦略、組織、マーケティングなど幅広い分野を研究領域としています。ファミリービジネスに興味のあるテーマ、あるいは流通産業（小売・物流）・食品産業に関する技術革新の影響などに関するテーマは歓迎します。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

企業活動に興味を持った研究領域となりますが、基本的な経営の理論の理解は研究の前提となります。最初に経営学の基本的な知識を確認します。そのうえで、実際に学生のみなさんが体験している企業活動、あるいは、社会人経験の中から抱いている疑問・問題点に基づく研究に対し、具体的な情報の収集から、モデル化を通じて、研究目的を達成するように指導していきます。

④特別研究の進め方

特別研究においては、テーマの絞り込みが最も重要です。研究を進めるにあたって、最初にスケジュールを作成しますが、各自の持っている問題意識を解決するには、どのような切り口で考えるのが良いのか、ある程度時間をかけて考えてもらいたいと思います。アプローチの方向性が決まったら、ゴールに向けて、着実に研究に取り組んでいくのですが、その過程で、テーマの絞り込み、アプローチの方法の確認、研究に伴う情報収集、仮説作成などの問題に直面した時、教員のアドバイスはもとより、共に学ぶゼミ生同士の情報交換が有効です。Face to Faceの場の設定だけでなく、ネットの活用や集合ゼミ、研究合宿を開催、なるべく多くのコミュニケーションの時間を作っていきたいと考えています。

特別研究

①専門分野

会社法、金融商品取引法、独占禁止法、不正競争防止法等を米国法と比較しながら研究しています。

②特別研究の研究領域

企業における危機管理（法的視点からのコーポレートガバナンス、コンプライアンス体制）

③特別研究の指導及び研究上のポイント

実務との関係を重視し「絵にかいた餅」にならないよう実務に役立つ解決策を検討してもらうように注意しています。研究テーマと問題意識を見つけ出すことが、研究において最も大切だと思います。日頃から問題意識をもって、生活してください。新聞を読んでいるとき、ニュースを見ているとき、おかしいなと思ったらそれを調べてください。一生付き合えるテーマが見つかるかもしれません。

④特別研究の進め方

基本的に院生の方と相談しながら進めていきます（メール、スカイプ等を利用）。研究対象・研究テーマについての相談、資料の収集方法、基本資料の読み込み、レポートの作成方法といったプロセスを経て修士論文の執筆に進んでもらいます。



経営・経済コース

陸 亦群 教授

Riku, Yugun

主な学歴

1996年3月 日本大学経済学部経済学科 卒業
1998年3月 日本大学大学院経済学研究科博士前期課程 修了
2001年3月 日本大学大学院経済学研究科博士後期課程 修了
博士（経済学） 取得

主な職歴

2003年5月 日本大学通信教育部専任講師
2006年10月 日本大学通信教育部准教授
2011年10月 日本大学通信教育部教授
2012年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科教授
2018年4月 日本大学経済学部教授

著書

Tsuji, Tadahiro, Yiliang Wu and Yugun Riku (ed.) (2015), Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia, Yachiyo Shuppan.
『産業集積と新しい国際分業－グローバル化が進む中国経済の新たな分析視点－』文真堂（共著）2007年3月

学術論文

「国際分業における製品アーキテクチャおよび企業戦略に関する一考察」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第29号 2016年3月, 「グローバル化時代の企業戦略展開と政府の役割」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第28号 2015年3月, 「新興国の都市化とダイナミックキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第27号 2014年3月, 「グローバル・マーケティング戦略と新興国のキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第26号 2013年3月, 「キャッチアップにおける政府の役割と東アジア新興諸国の経験」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第25号 2012年3月, 「東アジア新興国の経験の中央アジア経済発展への適用に関する一考察」『日本貿易学会年報』日本貿易学会 第48号（共著）2011年3月

指導・研究における特色, プロフィール

産業集積と地域開発の視点から, 新しい成長拠点の形成と地域経済, 並びに開発戦略の取り組みについて研究し続けてきた。現在の研究は, 企業生産活動のグローバル化と地域経済との関連性を念頭に置きつつ, もの作りアーキテクチャのモジュラー化と細分化分業との関わりに焦点を当てている。新興国の経済成長の背景には, 製品のモジュラー化の浸透があったと見られる。しかしながら, 全ての製品がモジュラー化されるのではなく, 擦り合わせ型の日本製品にも競争優位を有することは明らかであろう。新しい国際分業関係, すなわち生産工程における細分化分業関係を前提にして, 日本には新興諸国との協業関係を意識した新たな成長戦略が求められ, グローバルな視点から地方創生について探究したい。

担当科目

国際経済政策論特講, 特別研究

特別研究

①専門分野

国際分業と経済開発, 産業集積と地域経済, 経済開発戦略

②特別研究の研究領域

本特別研究では, 国際通商政策, 経済活動のグローバル化と地域経済を主な研究領域とする。
国際通商政策の歴史的推移, 世界経済のグローバル化の進展と新しい国際分業の出現, 産業集積そして企業生産活動のグローバル化といった要因に着目し, 地域経済問題, 国際経済問題に対してグローバルなアプローチ, すなわち地球規模の政策視野をもって理論的実証的な分析を通して考察することを目指す。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し, 研究課題を決定する。研究計画を作成し, それに即して研究指導を行うが, 国際貿易と経済開発の分析視点に立って, 理論と実証の両面から国際経済政策を分析する研究能力の育成を目指す。

④特別研究の進め方

主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

- ① 研究テーマの選定
- ② 研究計画の作成
- ③ 研究テーマ関連の参考文献目録の作成
- ④ 先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
- ⑤ 研究方法の策定と資料収集
- ⑥ 研究内容を具体化し, 論文作成に着手
- ⑦ 論文の構成案を作成し, 中間報告
- ⑧ 論文の草稿を作成し, 中間報告
- ⑨ 修士論文の完稿



経営・経済コース

丸森 一寛 准教授

Marumori, Kazuhiro

主な学歴

1982年 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業（経済学士）
1992年 慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了
（経営管理修士）

主な職歴

1983年 監査法人太田哲三事務所（現 新日本有限責任法人監査法人）ジュニア（会計士補）, シニア及びスーパーバイザー（公認会計士）
1987年 公認会計士登録
1992年 公認会計士丸森一寛事務所代表
1993年 税理士登録
2000年 キャピトル公認会計士共同事務所(現 東京神楽坂公認会計士共同事務所(A member firm of RSM INTERNATIONAL)パートナー
2005年 日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科助教授
2015年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

1989年 『公企業のための経営管理入門』中教出版（共訳）
2001年 『成功する中小企業経営の条件』大蔵財務協会（共著）

学術論文

1992年 「新規公開会社における資本政策と企業成長」（慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程学位論文）
2009年 「ビジネス・スクールにおけるフィナンシャル・アカウンティング教育についての一考察－活動アプローチを中心とした新たな教育プログラムの提案－」（慶應義塾経営管理学会誌『慶応経営論集』第26巻第1号）
2011年 「ディンジョン・ツリーを用いた不確実性下の意思決定」（『日本I V F学会誌』ISSN1881-9028 Vol.14）
2012年 「正味現在価値による長期投資の評価の限界と対応」（『日本大学

ビジネス・リサーチ」Vol.10)

指導・研究における特色, プロフィール

企業経営や実務との関係を常に意識した研究および指導を行いたいと考えています。具体的には, 担当科目および特別研究を通じて, 学生の実務経験や問題意識が修士にふさわしい研究に結びつくように, とともに考えていきたいと思っています。

担当科目

国際情報論特講, フィナンシャル・アカウンティング論特講, マネジメント・アカウンティング論特講, 特別研究

特別研究

①専門分野

経営政策・競争戦略・経済性分析・財務管理・会計管理・税務・監査

②特別研究の研究領域

経営全般, 特に戦略, ファイナンス, アカウンティングに関係する分野を研究領域としており, できれば実際の企業経営に何らかの示唆を与えるようなテーマを歓迎します。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

企業経営や実務との関係を常に意識した研究および指導を行いたいと考えています。具体的には, 担当科目および特別研究を通じて, 学生の実務経験や問題意識が修士にふさわしい研究に結びつくように, とともに考えていきたいと思っています。

④特別研究の進め方

各自の問題意識を尊重し, 相談の上で研究課題とスケジュールを設定します。その後, 先行研究の批判的検討から, 仮説の構築, 仮説の検証, 研究結果と提言に至るまでの各フェーズに沿った指導を行います。各自の研究についてゼミ生同士の意見交換ができるように, なるべく多くのゼミ生が同じ時間を共有するように特別研究を進めたいと考えています。



経営・経済コース

前野 高章 准教授

Maeno, Takaaki

主な学歴

2005年10月 Carleton University, Master Program in Economics 修了
2009年3月 日本大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得後退学
2014年3月 博士（経済学）学位取得（中央大学大学院経済学研究科）

主な職歴

2009年5月 日本大学経済学部助手
2014年4月 学習院大学非常勤講師
2015年4月 敬愛大学経済学部専任講師
2018年4月 日本大学通信教育部准教授
2019年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

「知的財産権保護と技術移転－ASEAN諸国の貿易データを使用した実証分析－」 長谷川聰哲編著『アジア太平洋地域のメガ市場統合』中央大学出版社 2017年3月
「TPP諸国の貿易構造と生産ネットワーク」馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成編著『TPPの期待と課題：アジア太平洋の新通商秩序』文眞堂 2016年10月
「サプライチェーンの効率化と貿易円滑化制度の推進」石川幸一・馬田啓一・高橋俊樹編『メガFTA時代の新通商戦略』文眞堂 2015年7月
「国際制度の標準化と貿易円滑化の促進：MRA協定と貿易コストの関連性」馬田啓一・木村福成編『通商戦略の論点』文眞堂 2014年6月

学術論文

「財ヴィンテージの貿易に関する研究－非新品貿易財の貿易構造に関する一考察－」『紀要』日本大学経済学部経済科学研究所 第49号 2019年3月
「清酒製造業の海外市場創出と産業特殊要因に関する研究－ヒアリング調査による清酒製造業の国際化における現状と課題－」『経営行動研究年報』第27号 経営行動研究学会 2018年3月

「中国企業の輸出行動：中国企業の企業形態別輸出と資金制約の関係性」『JAFTAB』日本貿易学会 第53号（共著）2016年3月
「中国における多国籍企業の立地決定要因に関する実証研究：日本企業と韓国企業の比較分析」『研究論集』敬愛大学経済学会 第87号（共著）2015年3月
「貿易円滑化の進展と貿易コストの変化」『JAFTAB』日本貿易学会 第51号 2014年3月
「貿易構造の分解と日本の国際分業パターン－中間財貿易を中心に－」『JAFTAB』日本貿易学会 第48号 2011年3月

指導・研究における特色,プロフィール

「国際貿易は一国の経済を豊かなものにする」という視点のもと、国際貿易と貿易障壁の関係性について研究をしています。特別研究においては、経済活動と国際制度の関係性を考察することを目的とし、国際的な制度設計が国内市場や海外市場における経済主体に与える影響について実証的・政策的なアプローチから研究に取り組んでいきたいと思います。

担当科目

国際経済政策論特講，特別研究

特別研究

①専門分野

国際貿易と経済開発，通商政策と貿易障壁，グローバル化と国際制度

②特別研究の研究領域

本特別研究では、国際貿易と通商政策，グローバル化と国際制度の進展を主な研究領域とする。グローバル化の進展に伴う国際貿易構造の変化，企業の海外進出に伴う国際分業の変化，国際制度の設計に伴う貿易障壁への影響，国際取引の円滑化に伴う地域経済活性化などの国際経済的要因に着目し，理論的・実証的・政策的な分析視点から，グローバル市場やローカル市場が抱える課題を分析・考察することを目指す。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

国際経済政策を分析する研究能力を育成することを目標とする。研究課題は院生の問題意識と研究の意義の両面から決定し，国際経済学の分析視点から修士論文の作成を試みる。

④特別研究の進め方

以下の項目に沿って修士論文の作成を試みる。定期的な中間報告を実施し，論文作成のための研究指導を行う。

1. 研究課題の選定
2. 研究計画の作成
3. 研究課題関連の先行研究の収集と内容検討
4. 研究方法の策定および関連するデータや資料の収集
5. 研究内容や研究意義の確認と論文作成の開始
6. 論文の校正案を作成
7. 論文の草稿を作成
8. 修士論文の完稿



国際(関係)・政治コース

安藤 貴世 教授

Ando, Takayo

主な学歴

1999年 東京大学教養学部教養学科国際関係論分科卒業
2001年 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程修了（学術）
2009年 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程単位取得満期退学
2014年 博士（国際関係）学位取得（日本大学）

主な職歴

2006年 外務省アジア大洋州局北東アジア課任期付き職員
2009年 日本大学国際関係学部助教
2013年 日本大学国際関係学部准教授
2013年 日本大学大学院国際関係研究科准教授
2016年 日本大学危機管理学部教授
2017年 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2013年「人間の安全保障と国際法－紛争後の和解からの一考察」松尾秀哉・臼井陽一郎編，『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版，2013年「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論』弘文堂，2016年「日本は難民鎖国？－難民の権利と難民認定制度」森川幸一・森肇志・岩月直樹・藤澤巖・北村朋史編『国際法で世界がわかる』岩波書店，2019年「麻薬新条約における『引き渡すか訴追するか』原則－テロリズム防止関連条約における同原則と比較して」岩沢雄司・森川幸一・森肇志・西村弓編『国際法のダイナミズム－小寺彰先生追悼論文集』有斐閣

学術論文

2007年「普遍的管轄権の法的構造－1949年ジュネーヴ諸条約の『重大な違反行為』規定をめぐって－」『国際関係論研究』第26号，2010年「海賊行為に対する普遍的管轄権－その理論的根拠に関する学説整理を中心に－」『国

際関係研究』第30巻2号，2010年“Prospects and Challenges of an East Asian Regional Security Framework: Veto Players and Winsets”（共著）『国際関係研究』第31巻1号，2010年「日韓国交正常化交渉における竹島問題－『紛争の解決に関する交換公文』の成立をめぐって－」『政経研究』第47巻第3号，2011年「国際テロリズムに対する法規制の構造－“aut dedere aut judicare”原則の解釈をめぐる学説整理を中心に－」『国際関係研究』第31巻2号，2011年「テロリズム防止関連条約における『引き渡すか訴追するか』原則の成立－『航空機の不法奪取の防止に関するハーグ条約』の管轄権規定の起草過程をめぐって－」『国際関係研究』第32巻1号，2012年「『国家代表等に対する犯罪防止処罰条約』における裁判管轄権規定－絶対的普遍的管轄権の設定をめぐる起草過程の検討（1）」『国際関係研究』第33巻1号，2013年「『国家代表等に対する犯罪防止処罰条約』における裁判管轄権規定－絶対的普遍的管轄権の設定をめぐる起草過程の検討（2・完）」『国際関係研究』第33巻2号，2013年「人質条約における裁判管轄権規定－被害者国籍国と被強要国の管轄権の設定をめぐる起草過程の検討－」『国際関係学部研究年報』第34集，2015年「国際刑事裁判所とテロリズム－国際刑事裁判所規程の起草過程におけるテロリズムの扱い－」『国際関係研究』第35巻2号，2015年「国際刑事裁判所の対象犯罪拡大の可能性とテロリズム－テロリズムの追加に関するオランダ改正案に注目して－」『国際関係研究』第36巻1号，2017年「海洋航行不法行為防止（SUA）条約における裁判管轄権規定－被強要国の管轄権をめぐる議論を中心に－」『危機管理学研究』創刊号，2018年「テロリズム防止関連諸条約の管轄権規定形成における「法の一般原則」の機能」『危機管理学研究』第2号 ほか

指導・研究における特色,プロフィール

今日の国際社会はあらゆる分野において国際法により秩序付けられているといっても過言ではない。私自身はこれまで国際法における個人の位置付けに関心を有し，特に国際刑事法の観点から，個人の国際犯罪の処罰に関する法構造に焦点を当て研究を進めてきたが，指導・研究においては，現実の国際社会において，国家，国際組織，個人といった主体がどのような国際規範に基づいて行動しているのか，国際社会における「法の支配」とは何を意味するのかといった点について，具体的な法の適用例を通し院生の皆さんとともに考えていきたい。

担当科目

国際法特講，特別研究

特別研究

①専門分野

国際法

②特別研究の研究領域

特別研究においては国際法全般を研究領域とし，可能な限り広範に対応する。国際法の総論的な部分をはじめ，国際人権法，国際刑事法，武力紛争法，国際安全保障をめぐる国際法，空間の規制に関する国際法（海洋法，空域・宇宙など），国際組織法，国際環境法などにいたるまで，対象分野は多岐にわたる。今日の国際社会において日々生じる様々な諸問題や事象が国際法を枠組みとしていかに調整・規律・解決されているかという点について研究を進めていく。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識，関心領域，さらには主体的な研究姿勢を尊重しつつ，教員と相談のうえ，研究テーマを決定する。研究テーマ決定後は，先行研究の整理・分析，研究手法および論文の構成の策定，関連資料の収集・読み方，論文執筆に至るまで，その都度指導を行う。



国際(関係)・政治コース

川中 敬一 教授

Kawanaka, Keiichi

主な学歴

1982年 防衛大学校理工学専攻機械工学科卒業
2003年 杏林大学大学院国際協力研究科開発問題専攻 博士前期課程修了(学術)
2006年 杏林大学大学院国際協力研究科開発問題専攻 博士後期課程修了(学術)

主な職歴

1982年3月 総理府(当時)
2007年3月 防衛大学校防衛学教育学群准教授
2013年4月 東京財団ユーラシア情報ネットワーク・チーム上席アソシエイト
2014年4月 日本大学総合科学研究所教授
2016年4月 日本大学危機管理学部危機管理学科教授
日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

「米海軍主催演習に中国軍初参加「日米は利害一致」の幻想に衝撃」『週刊エコノミスト』8月26日号2014年8月, 「権力崩壊の前兆は知識人の絶望」『機会の格差』が現在の火種」『週刊エコノミスト』4月29日号2014年4月, 『中国の海洋進出』成山堂書店(共著)2013年4月, 「海軍拡充の根底にある建国理念と近海防御戦略」『週刊エコノミスト』3月26日号2013年3月, 「歴史的視点から導く中国軍事戦略の方向性」『防衛大学校特別研究報告』第42号2011年12月, 『中国の建国理念と国家・軍事戦略』防衛大学校2009年10月, 『「戦略」の強化書』芙蓉書房出版(共著)2009年4月, 『「孫子兵法」教本』防衛大学校(翻訳)2008年6月, 「「和諧世界」の歴史的連続性に関する考察」『JANAFA会報誌』第35号2009年1月

学術論文

「中国の海洋進出と台湾関係」『警察政策』第15巻2013年3月, 「中国の対外武力行使発動における目的と特徴」杏林大学2006年9月

指導・研究における特色, プロフィール

※社会学的立場を基軸にしつつ, 人文学的視点と自然科学的視点とを交錯させる思索と考察を研究姿勢とする。なぜならば, 人為的危機現象の主体は人間であり, その人間が行為するには, 環境と経緯とが必ず介在するからである。他方, 人間の行為は自然の摂理に大きく制約され, 同時に科学技術の進歩による制約の緩和も存在する。こうした理由から, 上記姿勢を堅持するのである。

※人間の営みには, 「可変部分」と「不変部分」とが存在する。あたかも, 潮の流れと, うねりや波の関係に類似している。よって, 波頭のみに気を奪われ, 潮の流れを見誤らないよう留意する必要がある, 社会的現象観察では重要と考えている。

担当科目

危機管理論特講, 特別研究



国際(関係)・政治コース

瀧川 修吾 准教授

Takigawa, Shugo

主な学歴

1997年 日本大学法学部政治経済学科卒業 学士(法学)
1999年 日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士前期課程修了 修士(政治学)
2009年 日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修了 博士(政治学)

主な職歴

2004年 日本大学通信教育部インストラクター
2005年 日本福祉教育専門学校非常勤講師(2009年3月まで)
2006年 洗足学園短期大学非常勤講師(2009年3月まで)
2007年 日本大学文理学部非常勤講師(2014年3月まで)
2011年 日本橋学館大学リベラルアーツ学部専任講師(2013年3月まで)
2013年 日本橋学館大学リベラルアーツ学部准教授(2015年3月まで)
2015年 開智国際大学リベラルアーツ学部准教授(校名変更による:2016年3月まで)
2016年 日本大学危機管理学部准教授
2017年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2005年『政治と行政の理論と実際』思文閣出版(共著), 2006年『近代日本政治史Ⅱ 大正・昭和』南窓社(共著), 2007年『増訂新版 近代日本政治史Ⅰ 幕末・明治』南窓社(共著), 2007年『臨床に必要な法学』弘文堂(共著), 2008年『小泉劇場千秋楽－発言力4－』三和書籍(共著), 2013年『リーガル・マキシマム－現代に生きる法の名言・格言－』三修社(共著), 2014年『征韓論の登場』櫻門書房, 2015年『法学入門』光生館(共著), 2018年『外国人の受入れと日本社会』日本加除出版(共著)ほか

学術論文

2003年「山田方谷と征韓論」(日本大学大学院『法学研究年報』第32号),

2004年「征韓論と勝海舟」(日本大学大学院『法学研究年報』第33号), 2005年「ロシアによる対馬占拠事件の考察」(日本大学大学院『法学研究年報』第34号), 2006年「対馬藩の征韓論に関する比較考察－文久三年・元治元年・慶応四年の建白書を中心に－」(日本大学大学院『法学研究年報』第35号), 2006年「幕末の排外・優越主義的思考様式についての一考察」(日本法政学会『法政論叢』第42巻第2号), 2008年「征韓論の論理的構造とその起原に関する研究」(学位申請論文), 2009年「橋本左内の対外観とアジア雄飛論－日露同盟論を中心に－」(日本大学『政経研究』第46巻第2号), 2010年「2009年学界展望／政治思想(日本・アジア)」(日本政治学会『年報政治学2010-II』), 2012年『『江湖(ごうこ)新聞』と福地櫻痴」(日本橋学館大学『紀要』第11号), 2013年「2012年書評／政治史(日本・アジア)」(日本政治学会『年報政治学2013-I』), 2015年「2014年学界展望／政治史(日本)」(日本政治学会『年報政治学2015-II』), 2016年「学術出版にまつわる諸作業の電子化に潜む陥穽－研究教育者の視点から」(開智国際大学『紀要』第15号)ほか

指導・研究における特色, プロフィール

奇跡的な近代化を遂げた日本の政治史は, グローバル化が進展する昨今の国際社会の在り方を考える上でも極めて示唆に富んでいる。担当科目および特別研究を通じて, 日本政治史における研究の方法論を修得し, 査読付き学術雑誌への掲載が可能な水準の修士論文を完成させる。

担当科目

日本政治史論特講, 特別研究

特別研究

①専門分野

軍事戦略思想(特に, 孫子, 毛沢東及びマハーン), 当今中国の軍事戦略, 米中関係と世界, 中国の国防・治安法制度

②特別研究の研究領域

※中国の各分野における危機的現象を伝統的思想と中国共産党の理論とを尺度として, 現今中国を等身大に理解する。
※中国を基軸とした国際情勢の歴史的経緯から, 各種危機的現象の本質を理解する。
※軍事的観点から, 各分野の危機的現象の背景と意義を理解する。
※中国に関連する軍事・治安上の危機的現象を外部世界(特に, 欧米)との関連で理解する。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

中国共産党および中国国民党の政治的・文化的理念(特に, 19世紀中葉以降の歴史的経緯)と, 各種の危機的現象との関連を考察することを推奨する。この手法により, 学生諸氏の思考と情緒を中国人のそれに疑似

投影して, 中国(人)の表層的言説には現れない深層的衝動を理解する素地を築く。その上で各学生諸氏の関心事に対する考察を進めるよう指導する。
また, 各種現象において, 台湾および米国の中国の意志決定に対する作用を常に考察に加えるよう指導する。

④特別研究の進め方

入学までに「2年間(実質的には1年半余)で何を明らかにしたいか」を確立することが前提となる。また, 入学と同時に論文仮執筆開始が肝要である。具体的には, 以下の要領で論文作成を遂行する。
①関心の所在報告, 中国を基軸とする近代史概要把握(推奨資料通読), 途中報告(隔月1回を標準), ②①と同時に論文執筆, 中間報告(第1年次末), 最終的修士論文作成・草稿, 修士論文完成

特別研究

①専門分野

日本政治史・日本政治思想史

②特別研究の研究領域

日本政治史研究のアプローチ方法は様々です。担当教員の経歴を考えるに, 対象とする時代は, 幕末から昭和までが望ましいです(平成も対応できますが, 古代や中・近世は荷が重いです)。つぎに内容ですが, 特定の事件や制度, 政策, 組織, 人物の他, 日本が対象ならば外交や地域, 思想を対象とする研究も歓迎いたします。むしろ史料研究自体は行いますが, 私は史学科卒ではないため, 専ら古文書の解読を学びたいという方は, 遺憾ながら他をお探してください。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

皆さんが各々に選択する研究テーマにより, ポイントは変わってくるものと思われていますが, 修士論文の完成を第一に考えるならば, 入学までにある程度, 興味関心を整理しておき, 早々に優れた先行研究と出会うことが必要です。好奇心旺盛は歓迎すべき長所ですが, 2年間は一瞬です。

年限を気にせず学問と向き合えれば理想ですが, まずは専門性の高い修士論文をしっかりと完成させ, どうしても心残があるならば, それらは博士課程で取り組みましょう。

④特別研究の進め方

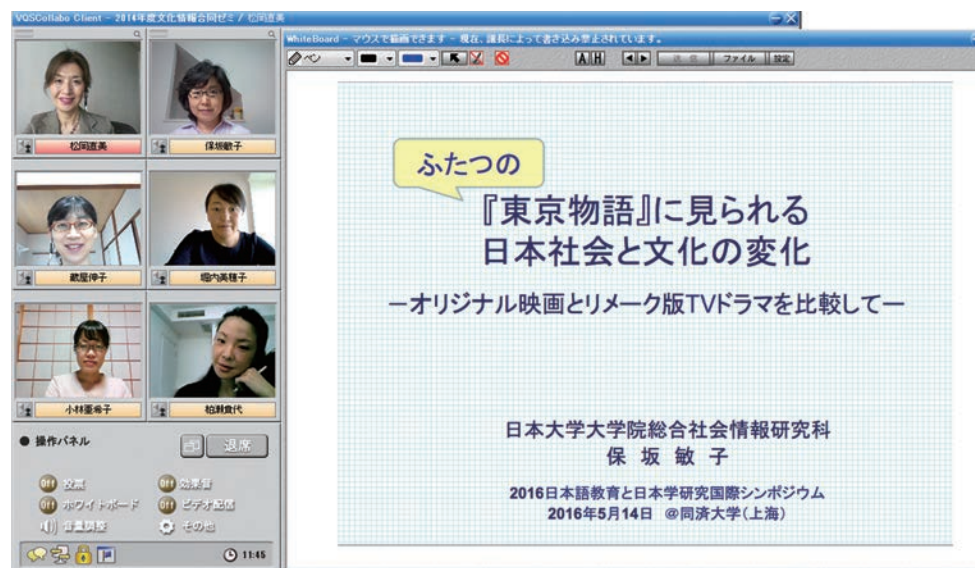
まずは皆さん自身が研究テーマを決め, 指導を受けつつ, 必要な参考文献や資料を収集し, 論文の適切なアウトラインを作り上げることが目標です。各自の力量やテーマにも拠りますが, 通常このアウトラインは何度も作り直すことになるはずです。大抵は欲張りすぎて, 一冊の本でも纏めきれない壮大な議題設定をしてしまうからなのですが, これは決して無駄にはなりません。主題の周辺を把握することは, 自分の論文の学術的意義を知る上で必要な作業ですし, 今後の研究課題の発見にも繋がります。イメージとしては, 周辺を広く学びつつ, これだというピンポイントを見定め, 深く掘り下げると良いでしょう。

グローバル・コミュニティに 寄与する文化エキスパートを養成する

多様な文化に対する適正な理解だけでなく、時代・地域・社会を超えて、伝播し変容を遂げる文化の可変的・動態的特質を十分に理解して、文化の受信・発信・媒介を行うエキスパートの育成を目指します。文化研究コースでは、比較文学を軸に文学や漫画など多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高めます。言語教育研究コースでは、国境を越えて移動する人々の言葉と文化の課題を理解し、それを踏まえた日本語教育や英語教育を行う資質・能力を高めます。2つのコースを両輪に、グローバル・コミュニティの構築に寄与できる文化翻訳者としての力の獲得を教育の目的としています。



夏期スクリーニングワークショップ



サイバーゼミ 保坂教授・松岡教授合同ゼミ—東京、香港、上海をつないで—

2つのコース

文化研究コース

文化研究コースでは、比較文学、メディア文化論、翻訳論特講等で文化とその伝達について理論的に学びます。さらに、古代から近現代までの日本文化、中国語圏文化、英語圏文化などについても専門的知見を深めます。

言語教育研究コース

言語教育研究コースでは、第二言語習得論、言語教育学、日本語／英語教育方法論などの科目で、最新の学習法と指導法、授業デザインについて学びます。教育現場で活用できる実践的な知見とスキルの修得をめざします。

授業科目一覧

文化情報論特講（4単位）・特別研究（6単位）が必修科目になります。その他に、各自の研究テーマに関連する科目5科目（各4単位、計20単位）を選択履修します。

開設科目は下記の2コースに大別されますが、各院生の研究テーマにより自由に選択できます。

必修科目	・文化情報論特講 ・特別研究 ・学位論文		
文化研究コース	・比較文学特講	・日本文化論特講Ⅰ	・英語圏文化論特講
	・メディア文化論特講	・日本文化論特講Ⅱ	・児童文学特講
	・翻訳論特講	・中国語圏文化論特講	
	・東アジア文化論特講	・ヨーロッパ言語圏文化論特講	
言語教育研究コース	・言語教育学特講	・第二言語習得論特講	・日本語教育方法論特講
	・言語学特講	・言語教育学特講	・英語学特講
	・異文化間コミュニケーション論特講	・言語教育デザイン論特講	・英語教育方法論特講
	・社会言語学特講	・日本語学特講	
専攻共通科目	・調査分析特講	・統計基礎Ⅰ	
	・ゲーム理論	・統計基礎Ⅱ	

※都合により開講科目を変更する場合があります。

修了生の声



立澤 亜沙希 日本語学校教員(文化情報専攻修了)

海外旅行好きという理由から日本語教師になり、この先日本語教育の世界で生きていきたいと思ったとき、先輩から修士号取得を勧められ、軽い気持ちで入学した大学院でした。しかし、これほどまでに学ぶことの楽しさを味わった2年間はありませんでした。親身に指導してくださる先生方の下で、仲間と励まし合いながら取り組んだ研究は私の宝物です。現在私は日本語学校で毎日留学生と接しており、大学院で得た知識を活かせる場にあります。大学院での学びがスタートであり、これから社会に貢献していくことが私の目標です。そして、常に学ぶ姿勢を持ちながら日本語教師として精進していきたいと思っています。



高橋 清隆 高校教員(文化情報専攻修了／総合社会情報専攻修了)

三年という限られた時間内において、一つの真理を追求するには綿密な研究計画が必要となります。研究方法に関しては修士時代に受けた教育が役に立つのですが、研究工程となると変更を余儀なくされる場合があります。特に、突然の仕事の依頼などにより捻出した時間が潰れ、予定していた研究が遅延することなどは想像に難くないでしょう。私も上記の問題に直面しました。しかし、私の指導教授はそのような窮状を見て取り、私に合った予定をアドバイスし直して下さいました。いわば、研究工程というルールを個に合わせて再敷設して下さいました。あとは、知識の源泉である指導教授の薫陶や精神的支えを受けながらそのルールをひたすら走ればいいのです。皆さんも、本大学院で真理へと続くルールを走ってみませんか。



文化研究コース

清水 享 教授

Shimizu, Toru

主な学歴

1990年3月 日本大学文理学部史学科卒業
1995年1月 中国中央民族大学普通進修生修了
1997年3月 日本大学大学院博士前期課程史学専攻修了（文学修士）
2001年3月 日本大学大学院博士後期課程東洋史学専攻満期修了退学
2001年3月 中国中央民族大学高級進修生修了
2014年3月 博士（文学）学位取得

主な職歴

1991年9月 東京都葛飾区遺跡調査会調査員
2001年4月 日本大学文理学部人文科学研究所研究員
2002年4月 日本大学国際関係学部・短期大学部（三島校舎）非常勤講師
2003年4月 日本大学文理学部非常勤講師
2003年4月 日本大学通信教育部非常勤講師
2003年4月 人間文化研究機構総合地球環境学研究所共同研究員
2004年4月 日本大学理工学部非常勤講師
2006年4月 実践女子大学人間社会学部非常勤講師
2006年4月 法政大学キャリアデザイン学部兼任講師
2007年4月 明治大学商学部兼任講師
2007年11月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員
2008年4月 法政大学国際文化学部兼任講師
2008年10月 東京学芸大学人文社会学系兼任講師
2008年10月 人間文化研究機構国立民族学博物館共同研究員
2010年4月 日本大学商学部非常勤講師
2012年4月 日本大学薬学部非常勤講師
2013年4月 明治大学経営学部兼任講師
2014年4月 東京農業大学農学部非常勤講師
2016年4月 日本大学スポーツ科学部教授
2017年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

『講座ファーストビープルズ－世界先住民の現在－ 第一巻 東アジア』綾部恒雄監修末成道男・曾士才編2005年1月 明石書店(共著),『図録メコンの世界－歴史と生態－』秋道智弥編2007年3月 弘文堂(共著),『中国雲南少

数民族生態関連碑文集』唐立編 2008年4月 総合地球環境学研究所(共著), An Illustrated Eco-History of the Mekong Basin, Akimiti, Tomoya(ed.), White Lotus, Jul , 2008(共著),『雲南西部少数民族古文書碑文集』唐立編 2011年3月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共著),『台湾中央研究院傅斯年図書館藏彝文(僮僮文)文書解題』清水享編 2012年3月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共著), 他

学術論文

「涼山彝族の葬・墓制－土語地域間の差異についての一考察－」『西南中国納西族・彝族の民俗文化－民俗宗教の比較研究－』（p368-387）佐野賢治編, 1999年2月 勉誠出版（単著）,「從墓碑資料来看涼山彝族土司阿都氏初探」『彝族古文献與伝統医薬開発国際學術研討会論文集』（p559-577）, 彝族古文献與伝統医薬開発国際學術研討会組委編2002年7月 雲南民族出版社（単著）,「碑文が語る生態史-地域住民からみた生態環境の変化」『モンスーンアジアの生態史 第2巻 地域の生態史』（p35-53） 秋道智弥編 2008年4月 弘文堂（共著）,「関與雲南省南部生態環境碑刻」『明清以来雲貴高原的環境與社会』（154-182p）楊偉兵編 2010年6月 上海東方出版中心（単著）,「近代から現代における彝族社会の変化と文化変容についての総合研究－涼山彝族を中心として－」 2014年3月 日本大学博士学位論文,「町に出るピモ－県城におけるピモ（彝族祭司）の活動－」『中国の社会変化と再構築 グローカライゼーションの視点から』韓敏編 2015年3月 風響社（単著）, 他

指導・研究における特色,プロフィール

東アジアにおける民族の文化, 社会, 歴史の研究を歴史学と文化人類学から進めます。東アジアの多様な文化, 社会, 歴史を多角的に把握すること目指します。また文化, 社会の背景にある経済史や生態環境史の視点から立体的な研究を進めます。

担当科目

東アジア文化論特講, 特別研究



文化研究コース

野口 恵子 教授

Noguchi, Keiko

主な学歴

1994年3月 近畿大学文芸学部文学科（国文学専攻）卒業
1996年3月 近畿大学大学院文芸学研究科（日本文学専攻）修士課程修了
1999年3月 日本大学大学院文学研究科（国文学専攻）博士後期課程満期退学

主な職歴

1999年4月 日本大学文理学部国文学科助手
2003年4月 日本大学法学部専任講師
2006年4月 日本大学法学部助教授
2016年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授
2018年4月 日本大学法学部教授
2018年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2002年3月『上田萬年の万葉コレクションー日本大学文理学部図書館蔵「上田文庫」一』（共著）

学術論文

2003年4月 漂流する「女歌」－大伴坂上郎女論のために－『天平万葉論』翰林書房, 2004年5月 大伴坂上郎女歌の題詞と左注『古代中世文学論考』新典社, 2005年9月 額田王と宮廷世界－活躍の環境－『女流歌人 額田王・笠郎女・茅上娘子 人と作品』おうふう, 2007年2月 茶の湯と連歌－共営する場に関する一考－「茶の湯と座の文芸の本質の研究－『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」（日本学術復興会科学研究費補助金・基盤研究（C）研究代表者・大東文化大学教授蔵中しのぶ, 2007年3月 女性歌人たちの地名表現－平城京を中心に－「万葉古代学研究所年報」（（財）奈良県万葉文化復興財団内万葉古代学研究所）第5号, 2008年3月 万葉集の中の遣新羅使「研究紀要」（日本大学通信教育部通信教育研

特別研究

①専門分野

日本古代文学, 日本古代文化

②特別研究の研究領域

主に, 日本の古代文学・古代文化に関する研究領域を対象とする。それを, 日本国内における問題として捉えることもあるが, 東アジアからの影響を視野に入れながら考察することもある。また享受に関する研究, つまり平安時代, 鎌倉時代, 室町時代, 江戸時代などの後世の人々が捉えた古代文学・古代文化を研究対象にすることも重要な研究だと考えている。一方で, 高等学校の国語教科書も研究対象にしている。教材化された各時代の文学作品に対して, 専門的な立場からその適否を評価し, 今後のあるべき方向を提言する, もしくはどのような事情で教材となったのか, その歴史的な経緯や意義などを明らかにすることも必要だと考えている。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

院生にとっての修士論文は, それを書いた時の生き様を映すものだと考えている。従って, 院生が現在興味を持っていることを研究テーマとして優先したい。しかし, 限られた時間の中で成果を出さなければならないので, 場合によってはテーマを限定するよう求めることがある。また, 学外で行われている研究の現場を, 自分の目で確かめることによって研究意欲が高まるがあるので, 国内外で行われている学会発表, シンポジウム, 講演会などへの出席も促す。院生自身が学会での研究発表を希望する場合は, その指導も行う。加えて, 現地調査を奨励する。

④特別研究の進め方

まずは研究テーマに関連する資料収集と資料整理, その内容に対する問題提起を繰り返してもらう。こうした基本的・実践的な作業を通して論文構成を検討し, さらに考証を積み重ねた上で, 最終的にはオリジナルな論証結果もしくは問題提起を明示してもらう。指導方法は, 定期的なe-mailによる指導が中心になるが, 日時場所を調整して直接指導も数回は行いたい。



文化研究コース

山崎 眞紀子 教授

Yamasaki, Makiko

主な学歴

1984年3月 専修大学文学国文学科卒業
1991年3月 専修大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程修了（文学修士）
1998年3月 専修大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了（博士（文学））

主な職歴

1998年4月 法政大学第一教養部兼任講師
2000年4月 駒澤大学文学部国文科非常勤講師，専修大学文学部国文学科非常勤講師
2001年4月 大妻女子大学文学部日本文学科非常勤講師
2002年4月 共立女子大学文芸学部非常勤講師
2003年4月 札幌大学法学部准教授
2006年4月 北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻講師
2008年4月 札幌大学法学部教授
2009年4月 パリ第7大学東洋言語学科特別研究員（1年間）
2013年4月 札幌大学大学院文化学研究科教授
2015年4月 北海道大学文学部国文学非常勤講師
2016年4月 日本大学スポーツ科学部教授
2017年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科 教授
2017年10月 札幌大学客員教授

著書

2005年 『田村俊子の世界 作品と言説空間の変容』彩流社（単著），

2005年 『現代女性作家読本①川上弘美』、『現代女性作家読本②小川洋子』鼎書房（共著），2006年 『現代女性作家読本⑦多和田葉子』鼎書房（共著），2008年 『村上春樹の本文改稿研究』若草書房（単著），2008年『上海1944-1945 武田泰淳『上海の螢』注釈』双文社出版（共著），2011年 『ライブラリー日本人のフランス体験，第18巻文学者のフランス体験Ⅰ～1929』柏書房（編著），2011年 『国文科へ行こう！―読む体験入学―』明治書院（共著），2012年 『新聞で見る戦時上海の文化総論―「大陸新報」文芸文化記事細目』ゆまに書房（共著），2013年 『村上春樹と女性，北海道…。』彩流社（単著），2016年 『昭和前期女性文学論』翰林書房（共著），2017年 『戦時上海グレーゾーン』勉誠出版（共著），2018年 『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本――一九二六～二七年の中国旅行日記を中心に』研文出版（共著），2019年『上海の戦後』勉誠出版（共著），ほか。（編著），2011年 『ライブラリー日本人のフランス体験，第18巻文学者のフランス体験Ⅰ～1929』柏書房（単著），2012年 『新聞で見る戦時上海の文化総論―「大陸新報」文芸文化記事細目』ゆまに書房（共著）

学術論文

2007年「海に降る雨―村上春樹『国境の南太陽の西』論」（単著）『日本文学』56巻11号，2009年「笙野頼子『胸の上の前世』論―女の私が男になって男を愛すること」（単著）『札幌大学総合論叢』第26号，2010年「戦後日本における〈肥満〉文学」（単著）『日本文学』59巻11号，2015年「田村俊子，行為体としての『女声』創刊―川から海へ』『札幌大学総合研究』第6号，2015年「田村（佐藤）俊子における『女声』―「信箱」「余声」を中心に（上）」（共著）『札幌大学総合研究』第7号，2016年「田村（佐藤）俊子における『女声』―「信箱」「余声」を中心に（下）」（共著）『札幌大学総合研究』第8号，ほか。

担当科目

日本文化論特講Ⅱ，特別研究



文化研究コース

秋草 俊一郎 准教授

Akikusa, Shun'ichiro

主な学歴

2004年 東京大学文学部西洋近代語西洋近代語学科卒業
2009年 東京大学大学院人文社会系研究科修了博士（文学）

主な職歴

2006年 日本学術振興会特別研究員
2009年 ウィスコンシン大学マディソン校客員研究員（日本学術振興会優秀若手海外派遣事業による派遣）
2012年 ハーヴァード大学客員研究員（日本学術振興会海外特別研究員事業による派遣）
2014年 東京大学教養学部専任講師
2016年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2011年『ナボコフ 訳すのは「私」――自己翻訳がひらくテキスト』（東京大学出版会），2018年『アメリカのナボコフ――塗りかえられた自画像』（慶應義塾大学出版会）

学術論文

2012年「日本文学のなかのナボコフ――誤解と誤訳の伝統」『文学』第13巻第4号，2012年「自己翻訳者の不可視性――その多様な問題」『通訳翻訳研究』12号，2013年「『レキシントンの幽霊』異聞」『早稲田文学』6号，2014年「カノンをはかる――「世界文学全集」に見る各国別文学の受容の移り変わり」『世界文学』120号，2015年「カノンを輸入する――『ハーヴァ

ード・クラシックス』と円本全集」『比較文学』57号

指導・研究における特色,プロフィール

20世紀以降の日本およびロシア・欧米の言語文化研究をひろくおこなう。その際，世界文学や翻訳理論における近年の議論を紹介する。フランコ・モレッティやデイヴィッド・ダムロッシュの世界文学への近年の取り組みをときに講師自身の翻訳で紹介しながら，背景となった現代の文化状況について理解をうながしたい。受講生は言語，文学，翻訳などのなかから各自の研究課題を定め，学際的，超域的な研究を進めてほしい。高度な文献読解力を基礎にした人材を育成したい。

担当科目

比較文学特講，英語圏文化論特講，ヨーロッパ言語圏文化論特講，特別研究

特別研究

①専門分野

日本近現代文学

②特別研究の研究領域

言文一致体へと移行する明治20年以降，現在までの日本文学を対象とする。つまり，現在使われている日本語で書かれた文学作品を研究していくのであるが，言葉はその時代の文化や歴史を内包し，哲学，異言語との差異化，人間の無意識，心の動きなどから育まれた思想によって生み出されたものであることを踏まえ，隣接した学問領域である文化，歴史，思想，心理などを射程に入れて研究を進めていく。上述した期間の文学作品であれば，広い領域での研究に対応する。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは何に興味，関心を抱いているのかを見極め，何を知りたいと思うのか，具体的に説明できるようになるまで丁寧に指導し，そのうえで，知りたいことの核心を極めたくて，研究テーマを設定していくように導いていく。研究テーマが決定したら，文書資料のみならず映像資料やフィールドワークも踏まえた資料収集の方法を指導する。各研究会，関連学会への導きを行い，研究方法の見聞を広める機会を多くもつための情報を提供する。

④特別研究の進め方

1年次の前期は文学研究の方法を学ぶ。まずは文学理論の概論を理解することをめざし，そのうえで方法を選び，具体的な作品を挙げて分析していく。後期は受講者の興味のある作品に寄り添い，どのような方法で分析していくかを検討したうえで，研究対象と目的，方法を明確にし，研究計画書をまとめる。研究対象が決定したら，先行研究を徹底的に読み，ポイントをつかんだうえで，自らの方法との差異を見極め，自分のオリジナリティを明確にしていく。
2年次は論文執筆準備に入る。大切なのは問題提起であり，何を解き明かそうとするのかを明確化させ，それを解明していくにはどのような方法をとるのか，結論はどのように予測できるのかを見極めたくて，6月中旬までに論題，構成を決定し，文書にまとめ提出する。それをもとに7月下旬までに先行研究を収集し，研究史をまとめる。8月中旬までに章構成を詳しくたてて指導を受けたものを提出。その後すぐに執筆を始め，その成果を中間発表（10月中旬）で行い，指摘を受けたことを踏まえ論文の第一稿としてまとめる。11月末に第2稿を仕上げ，指導を受ける。12月末に完成稿を仕上げ，1月期日に指定された書式で清書して提出する。

特別研究

①専門分野

比較文学（日本・英米・ロシアなどふくむ），翻訳研究，ロシア文学，世界文学

②特別研究の研究領域

ロシア・欧米・日本の言語文化，文学研究，翻訳研究，出版文化，それに準ずる文化研究であれば可能なかぎり対応したいと思っています。文献を丁寧に読むことをいとわない，知的好奇心にとんだ方を歓迎します。
以下に講師の具体的研究例をあげておきます。もちろんこのような研究でなくてはいけないということはありませんが，参考までに。
1）世界文学カノン：日本や欧米の世界文学カノンがどう移り変わってきたかを，世界文学全集などを分析することで検討する。
2）自己翻訳：ウラジーミル・ナボコフをはじめ，サミュエル・ベケット，ミラン・クンデラ，西脇順三郎などに見られるself-translationの方法とその可能性を作品の分析や翻訳理論の適用によって検討する。
3）ナボコフとアメリカの出版文化：『ロリータ』を出版したことで知られるナボコフと，出版社の関係およびその受容を主に渡米後に編集者とのあいだにかわした書簡や出版資料から分析する。
上記のほか，文芸翻訳を翻訳研究の実践の一環としておこなっています。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

院生一人一人が関心ある研究課題にとりくみ，修士論文を完成できるように指導します。研究課題の妥当性や，資料収集，議論展開，論文執筆など，ひとつひとつ段階的に指導をおこないます。それぞれの関心にもとづき，国内外の関連学会・国際会議やシンポジウムなどに参加するよう求めます。

④特別研究の進め方

ゼミ生全員参加のサイバーゼミと，関心に応じたグループでのゼミをおこないます。個別ゼミ・個別指導・面談も，要望や必要に応じて随時おこなっています。学会への引率などの活動もあります。院生同士の発表を通じて発表力や批判力を，小グループのゼミで文献読解力や語学力，専門的な知識を身につけていきます。修士論文の提出が近くなるにしたがい，個別で添削指導や内容についての面談が増えていきます。



言語教育研究コース

島田 めぐみ 教授
Shimada, Megumi

主な学歴

1985年3月 成蹊大学文学部文化学科卒業
1995年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科国語教育専攻日本語教育講座修了（教育学修士）
2006年9月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理社会行動科学講座博士課程修了（心理学博士）

主な職歴

1995年4月 日本貿易振興会国際交流部 ビジネス日本語担当アドバイザー
1998年9月 東京学芸大学留学生センター 専任講師
2002年8月 東京学芸大学留学生センター 助教授
2007年4月 東京学芸大学留学生センター 准教授
2010年4月 東京学芸大学留学生センター 教授
2017年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科 教授

著書

2008年 『日本語教師のためのExcelでできるテスト分析入門』スリーエネットワーク（共著）、2011年 「第5章どう評価するか」遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶーその歴史から現場までー【第二版】』三修社（分担執筆）、2013年 「ハワイ日系人の日本語」『オセアニアの言語的世界』溪水社（分担執筆）、2015年 「第9章 日本語彙認知診断テスト」『日本語教育のための言語テストガイドブック』くろしお出版（分担執筆）、2017年 『日本語教育のためのはじめての統計分析』ひつじ書房（共著）、他

学術論文

1998年 「外国人ビジネス関係者の日本語使用－実態と企業からの要望－」（共著）『世界の日本語教育』8号、1999年 「アジア5都市の日系企業におけるビジネス日本語のニーズ」（共著）『日本語教育』103号、2002年 「日本語ビジネス文書の評価－会社員と日本語教師への調査から－」（単著）『多摩留学生センター教育研究論集』3、2003年 「日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」（単著）『日本語教育』119号、2006年 「日本語聴解テストにおいて難易度に影響を与える要因」（単著）『日本語教育』129号、2006年 「日本語Can-do-statementsを利用した言語行動記述の試みー日本語能力試験受験者を対象として－」（共著）『世界の日本語教育』

16号、2009年 「中国語母語話者を対象とした日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」（共著）『世界の日本語教育』19号、2009年 「Can-do statementsを利用した教育機関相互の日本語科目の対応づけ」（共著）『日本語教育』141号、2012年 「ハワイ日系二世の言語切替えに関するケーススタディ」（単著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第15号、2013年 「教育機関におけるCan-do statements自己評価の応用」（単著）『言語教育評価研究』第3号、2015年 「日本語学習支援のための認知診断テストの開発」（共著）『第二言語としての日本語の習得研究』第18号、2016年 「日本語文法認知診断テストの開発に関わる内容分析」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号、2017年 「ハワイの共通語となった日本語彙」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第20号、2017年 「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築－直接観的手法を中心に－」（共著）『琉球大学国際教育センター紀要』創刊号、2018年 「ハワイにおける借用語habut-の使用実態について－ハッシュタグ検索を用いて－」（単著）『学芸国語国文学』第50号、2018年 「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは－タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に－」（共著）『琉球大学国際教育センター紀要』2号、他

指導・研究における特色,プロフィール

学習者主体の教育へのシフト、学習者の多様化、社会のグローバル化などにより、日本語教育のあり方も変容しつつある。その中で、広い視野に立ち、研究を行う能力を重視する。また、先行研究における研究の位置付けを明確にし、正しい研究手法を選択できるよう指導する。

担当科目

社会言語学特講、日本語教育方法論特講、特別研究

特別研究

①専門分野

日本語教育学、言語テスト、言語接触、ビジネス・コミュニケーション

②特別研究の研究領域

日本語教育全般、社会言語学に関わるテーマであれば、できるだけ幅広く対応する。具体的には、教育現場における教授や評価の方法の検討、教材分析、言語テスト、ビジネス・コミュニケーションに関する理論や実践研究、コードスイッチングなど社会言語学的現象の検討、日本語と他言語との対照研究、習得研究などが考えられる。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

研究には、適切な研究テーマを設定すること、研究を遂行するための方法に関する知識を持っていること、実際に行動する能力を持っているこ

と、この3点が重要である。そのため、テーマの設定の仕方や研究・分析方法などについて学ぶ場を提供する。そして、それぞれ関心のあるテーマにおいて、これらのことを実践し、修士論文を執筆できるよう指導する。

④特別研究の進め方

一年次は、まず、それぞれ関心のあるテーマについて先行研究をまとめ、自分の研究の位置付けを明確にすることから始める。また、同時に、研究方法（質的研究、量的研究、データ収集方法、データ分析方法など）について学び、適切な研究手法を選定し、研究計画を立てる。一年次後半には、データ収集をスタートさせる。二年次前半は、データ分析を行い、中間発表（10月中旬）を経て、論文を執筆する。



言語教育研究コース

保坂 敏子 教授
Hosaka, Toshiko

主な学歴

1982年 西南学院大学文学部外国語学科フランス語専攻卒業
1988年 国立国語研究所日本語教育長期専門研修修了
1991年 国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程（教育方法学専攻視聴覚教育専修）修了（教育学修士）

主な職歴

1988年 文化外国語専門学校日本語科専任インストラクター
1989年 産能短期大学留学生別科非常勤講師
1991年 国際基督教大学教育研究所助手
1991年 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター非常勤講師
1992年 早稲田大学国際部（現日本語教育研究センター）非常勤講師
1997年 早稲田大学国際教育センター（現日本語教育研究センター）非常勤講師
2000年 フェリス女学院大学文学部非常勤講師
2004年 日本大学総合科学研究所助教授（研究所）
2006年 日本大学商学部 助教授（研究所）
2007年 日本大学総合科学研究所准教授（研究所）
2011年 日本大学大学院総合社会情報研究科兼任教員 准教授（研究所）
2014年 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2005年 『新版 日本語教育辞典』大修館書店（共著）、2008年 『海外の非母語話者日本語教師に特化した教育支援環境の調査と研究』W I T出版（共著）、2010年 『多言語によるe-learning日本語学習メディアを考える報告書』日本大学通信教育研究所（共著）、2014年 『映像作品を利用した日本語教育の体系化と授業デザインの研究』エーエスエス（共著）、ほか

学術論文

1991年 「外国語（日本語）の読解におけるメタ認知的技法の教授に関する

実証的研究－アンダーラインの場合－」（単著）『教育研究』34、1998年 「上級口頭表現能力養成方法の多様性－コース設計基準を求めて－」（単著）『日本語と日本語教育』26、2004年 「学習者同士のインターアクションにおける学びの実態」（共著）『小出記念日本語教育研究会論集』12、2008年 「海外の非母語話者日本語教師の教材使用状況に関する調査－非母語話者教師が求めるもの－」（共著）『小出記念日本語教育研究会論集』16、2010年 「対話重視の映画・ドラマを使った日本語教育－多言語多文化学習者は何を学ぶか－」（単著）『2010世界日本語教育大会（2010ICJLE）論文集』、2012年 「多言語によるe-Learning日本語学習メディアに関する共同研究－専門科目を核としたe-Learning教材の試行と評価－」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第15号、2013年 「映像作品を利用した日本語教育の体系化に向けて－海外における利用実態と教師の意識から－」（共著）『2012年度徳島大学国際センター紀要・年報』、2016年 「字幕翻訳で失われる要素－言語教育との関わりを考える－」（単著）『日本語と日本語教育』44、2016年 「映画に埋め込まれた文化に対する認識－異なる文化背景の人々は何を「日本文化」と捉えるか－」（単著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号、2016年 「文化翻訳が拓く異文化間コミュニケーション－文学、メディア・アート、パフォーマンスにおける事例研究－」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.18、2018年 「映像作品における翻訳しにくい日本語－日本語非母語話者の認識に関する調査から－」（単著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第21号、2019年 「日本映画の字幕における同化翻訳－『君の名は。』と『東京物語』の比較分析から－」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第22号 ほか

指導・研究における特色,プロフィール

社会のグローバル化が進む現在、異文化間理解や相互理解が言語教育の主要な目的だと考える。この立場から言語と文化を融合した日本語教育のあり方や教育・学習支援の方法について、ヨーロッパのCEFRなど世界的な外国語教育の動向、異文化間理解分野の知見を踏まえながら理論的・実証的に研究を進める。また、日本語学習者がICTや多様な学習リソースを使って、他者と協働しながら、自律的に学習を進めていくための学習環境デザインや学習支援について検討する。グローバルな視点、また、普遍的な言語教育の視点から日本語教育の研究を進められる人材の育成を目指す。

担当科目

文化情報論特講、言語教育工学特講、特別研究

特別研究

①専門分野

日本語教育学、言語文化教育、教育工学、視聴覚教育

②特別研究の研究領域

日本語教育・日本語学習者支援をめぐるテーマであれば、国内・海外を問わず、特定の教育現場や学習者に特化した問題についてできるだけ幅広く対応する。また、日本語教育の方法論や育成すべき言語能力自体の検討、国語教育や他の外国語教育との比較など教育学的な研究だけでなく、異文化語用論や学習者の誤用分析など言語学的側面も可能な限り対応する。さらに、文化を重視した言語教育、ICTを使った言語教育、自律的な言語学習をテーマとする場合、日本語以外の外国語の教育でも対応する。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

それぞれ自分の関心のある研究課題を設定し、自律的に資料収集や論文作成取り組みとともに、テレビ会議や掲示板を用いて、研究の計画、遂行、論文執筆の過程で、段階的にお互いにコメントをし合う協働学習を

実践する。協働学習と教員の指導を基に、自身の研究計画や研究内容を振り返り、論文の推敲を行って、論考を深めること。また、関連の国際会議やシンポジウムなどの情報を共有するので、積極的に参加し、研究の方法や論考の深め方などについて広く学ぶこと。

④特別研究の進め方

一年次は、前期に研究の進め方を学ぶと同時に、自分の研究テーマについて先行研究をレビューし、自分の研究課題の位置づけを検討する。後期には、テーマを絞り込み、研究の対象と目的、方法を明確にして研究計画書をまとめ、これに沿って各自文献、アンケート、インタビュー、フィールドワークなどデータの収集を開始する。二年次は、前期にデータ収集を終了させ、分析・整理する。後期の中間発表（10月中旬）でそれを発表した後、論文の第1稿を作成し、11月中旬にゼミ内で発表する。そこでのフィードバックを基に論文を推敲し、第2稿を作成。指導教官の確認を受けて、最終稿を作成して提出する。



言語教育研究コース

田嶋 倫雄 准教授
Tajima, Michio

主な学歴

1994年 大東文化大学外国語学部英語学科
1996年 立教大学大学院文学研究科英米文学専攻博士課程前期修了（M.A.取得）
2002年 University of Surrey, Department of linguistic, cultural and international studies, M.A. in Linguistics（TESOL）

主な職歴

1996年 Northeastern Junior College, アメリカ合衆国コロラド州非常勤講師
1997年 大東文化大学外国語学部英語学科非常勤講師
1998年 城西大学経済学部非常勤講師
1999年 大東文化大学地域連携センター講師
1999年 大妻女子大学文学部英文学科非常勤講師
2000年 東京経済大学非常勤講師
2003年 日本大学文理学部非常勤講師
2006年 日本大学歯学部非常勤講師
2007年 日本大学歯学部専任講師
2013年 日本大学歯学部准教授
2015年 日本大学大学院総合社会情報研究科文化情報専攻

著書

2008年 『2週間で英語耳：歯科衛生士のためのListening Skills』（共著）医歯薬出版株式会社
2013年 『ワード・バンクmini—基礎を固める英単語1800』朝日出版社
2014年 『今を生きるこころとからだ』朝日出版社

学術論文

2002年 “Motivation, attitude, and anxieties toward learning English as a foreign language: A survey of Japanese university students in Tokyo.” 言語の世界20号, 2004年 “Motivation, attitude, and anxiety differences

between successful learners and absentees of continuing education programs for English language proficiency test preparations.” 言語の世界22号, 2007年 “Anxiety toward Learning English Differences between Successful Learners and Absentees.” 大東文化大学語学教育研究所. 語学教育研究論叢24, 2008年 『2週間で英語耳：歯科衛生士のためのListening Skills』（共著）医歯薬出版株式会社, 2009年 “David Graddol: English Next: Why Global English May Mean The End of ‘English as a Foreign Language’”（書評）The American Society of Geolinguistics. No. 33, 2012年 “Poster Presentations in English Language Classes for Second-Year Dental Students” Journal of Medical English Education. No.11.1, 2012年 “On demand self-publishing: publish your own book!” JALT: Between the Keys. No.20.1, 2013年 『ワード・バンクmini—基礎を固める英単語1800』朝日出版社, 2014年 『今を生きるこころとからだ』朝日出版社, 2015年 “The Use of Loan Words in Tokyo” Multilingual Perspectives in Geolinguistics International Conference of the American Society of Geolinguistics in Honor of its 50th Anniversary. The American Society of Geolinguistics., 2016年 “Dental vocabulary learning: initial words learners choose” Plurilingual Perspectives in Geolinguistics.（共著）

指導・研究における特色, プロフィール

英語教育学全般において関わる理論と研究を取り扱う。英語学習者に対してどのような教育方法を取ることがより効率が良いのか、学習者群を社会心理学的にとらえるとどのような特徴があるのか、また産官学連携に係る英語教育にはどういった事項が推奨されるのか、など多岐に渡り英語と教育に関する知見を養う。それに伴いデータの取得、またその分析方法も取り入れ学際的な研究が進められるようになることを目指す。

担当科目

第二言語習得論特講，特別研究



開講式



スクーリング



学位記伝達式

特別研究

①専門分野

英語教育学

②特別研究の研究領域

第二言語習得または英語教授法の研究である限り、可能な範囲で広範に対応する。大枠の研究テーマ例として、外国語習得の学習者観察と分析、学習者の情意面からみる外国語学習、効果的な学習方略を念頭においた外国語教授法、グローバル化を考慮した産官学連携外国語教育、国際英語としての英語教育など、英語教授法に係る範囲で課題を設定し、実際にデータ収集し精査・分析をする。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

各自が研究テーマを設定し、先行研究および資料を包括的に読解、データ収集、分析、論文執筆に取り組んでもらいたい。できるだけ多く調査・検討し、総合的・分析的・探索的・演繹的研究において自分の立ち位置を明確にし、統計手法を用いて分析し、論文にまとめていくように実施すること。また、関連する学術会議への出席や口頭研究発表を促すので、積極的に参加し、多くの学者・研究者の研究発表にも触れていくこと。

④特別研究の進め方

第1年次は研究テーマの絞り込み、先行研究収集と精読、研究計画を作成する。5月末までに興味のある事柄の概要を決定、6月末に主要な先行研究のリスト、8月末に文献調査結果の概観をすること。10月下旬には研究テーマを仮決定し、11月下旬に試行研究調査計画書の提出、2月中旬にその結果を提出すること。第2年次には、論文の概要決定、データ収集と分析、論文の完成へと進めていく。4月初頭に論文概要を提出し、5月初旬に研究動機・文献研究・研究方法・結果（予想）から成る簡易草稿を提出する。6月下旬までにデータ収集を完了し、分析の後7月中旬に図表提出をすること。8月末を第1回草稿提出の締め切りとし、9月下旬から10月にかけて前期課程研究（中間）発表会を行う。10月末を第2回草稿提出締め切りとし、12月下旬には修士論文提出とする。尚、教員や他の院生からのフィードバックを参考に加筆・修正を繰り返し実施し、修士論文を完成させ提出すること。



オープン大学院

哲学, 心理学, 教育学, 医療・安全学, スポーツ科学 その他の学問的アプローチにより 人間存在の基本問題を総合的に解明する

本専攻は、公共機関と私企業とを問わず様々な社会的活動領域において、現代の先端的なニーズに対応するために、人間存在の基本問題について十分な知見をもって活躍できる人材を養成することを目標とします。哲学、心理学、教育学、医療・安全学、及びスポーツ科学の5つの分野を支柱に据えながら、人間理解に不可欠な諸学問を有機的な連関において配列し、人間存在をめぐる現代的状況を深く理解できるように配慮しています。



泉教授の合宿ゼミ

5つのコース

哲学コース
(哲学史特講, 宗教哲学特講等)

心理学コース
(心理学史特講, 心理学研究法特講等)

教育学コース
(生涯学習論特講, 教育心理学特講等)

医療・安全学コース
(健康科学特講, 安全学特講等)

スポーツ科学コース
(スポーツ運動学特講, スポーツ医学特講等)

※この区分は履修のための一つの目安です。各人の学問的関心や履修計画にしたがって、科目を適宜、組み合わせることが可能です。

授業科目一覧

人間科学特講(4単位)・特別研究(6単位)が必修科目になります。そのほか、各院生の研究分野に関連する科目(各4単位)5科目20単位を選択し修得します。

各関連科目は主に下記の5コースになりますが、各院生の研究分野により自由に選択できます。

必修科目	・人間科学特講 ・特別研究 ・学位論文		
哲学コース	・社会哲学特講	・宗教哲学特講	・生命倫理学特講
	・哲学史特講	・科学哲学特講	・社会思想史特講
心理学コース	・心理学史特講	・社会心理学特講	・医療心理学特講
	・心理学研究法特講	・産業・組織心理学特講	・行動分析学特講
	・認知心理学特講	・臨床心理学特講	・コミュニケーション心理学特講
教育学コース	・生涯学習論特講	・教育心理学特講	・生徒指導論特講
	・学校教育学特講	・教育臨床学特講	・教育評価論特講
医療・安全学コース	・健康科学特講	・人間工学特講	
	・安全学特講	・環境生理学特講	
スポーツ科学コース	・スポーツ運動学特講	・スポーツ心理学特講	
	・スポーツ医学特講	・コーチング学特講	
専攻共通科目	・調査分析特講	・統計基礎Ⅰ	
	・ゲーム理論	・統計基礎Ⅱ	

※都合により開講科目を変更する場合があります。

修了生の声



池谷 博美 薬剤師(人間科学専攻修了)

「通信制」というと、一人で学修するイメージでした。しかし入学してみるとサイバーゼミや面接ゼミ、スクーリング、たくさんのメールのやりとりをすることで、先生方やゼミ生と一緒に学修や研究を進めていくことができることを実感しました。また、仕事も年齢も様々なゼミ生と交流することで、たくさんの刺激を受けることができるので、学修面だけでなく仕事など一個人としてとても勉強になります。



岩立 朋子 看護師(人間科学専攻修了)

通信制大学院で勉強することの喜びと期待、そして仕事との両立に対する不安を抱きながら新たな生活がスタートしました。面接ゼミやサイバーゼミ、スクーリングに参加して仲間に出会えることで、私が描いていた通信教育のイメージは変わりました。同期や先輩たちと一緒に学修していける、仲間の存在がとてもうれしく思います。また、色々な職種の人と話すことは、とても楽しく刺激的で自分の視野や考え方も広がり、人生の勉強になります。



哲学コース

大熊 圭子 准教授
Okuma, Keiko

主な学歴

1980年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
1988年 日本大学通信教育部文理学部哲学科編入，卒業
1989年 日本大学大学院文学研究科哲学専攻博士前期課程修了
1993年 日本大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程満期退学

主な職歴

1980年 三菱電機株式会社商品研究所研究員
1991年 日本大学通信教育部インストラクター
1993年 日本大学通信教育部常勤嘱託
1999年 日本大学商学部非常勤講師
1999年 日本大学通信教育部非常勤講師
2003年 日本大学法学部専任講師
2007年 日本大学法学部准教授
2011年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2000年 『21世紀の哲学』八千代出版（共著），2004年 『21世紀の倫理』八千代出版（共著），2005年 『法科大学院適性試験対策』法学書院（共著），2007年 『21世紀の倫理』八千代出版（共著），ほか

学術論文

2018年 「繊細の精神と感性について」『桜文論叢』第96号，2017年「感性とKansei」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第21集，2010年「複雑系における「もの」と「こと」」『桜文論叢』第77号，2007年 「抽象語の曖昧性」論理哲学会誌 第5号

指導・研究における特色, プロフィール

現代に生きる我々にとって，科学・技術について考えることは必須です。単に「生きる」だけでなく，よりよく生きるために科学・技術とどう向き合っていくべきか，そもそも科学とはいかなるものなのか等について，できるだけ論理的に考えていけるように指導していきます。

担当科目

科学哲学特講，特別研究



哲学コース

岡山 敬二 准教授
Okayama, Keiji

主な学歴

1994年 北海道大学文学部卒業
2004年 中央大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻修了 哲学博士

主な職歴

2004年 中央大学文学部 非常勤講師（～2012年）
2005年 大妻女子大学社会情報学科 非常勤講師（～2006年）
2009年 中央大学理工学部 非常勤講師（～2013年）
2012年 日本大学法学部 助教
2015年 日本大学法学部 准教授
2017年 日本大学大学院総合社会情報研究科 准教授

著書

2014年『人間が人間でなくなるとき——フッサールの影を追え，とメルロ＝ポンティは言った』亜紀書房（単著），2008年『フッサール——傍観者の十字路』白水社（単著），ほか

学術論文

2019年「人間への問いと思索の祝祭 ——ハイデガー『芸術作品の根源』の根源をさぐって——」『桜門論叢』第99巻，日本大学法学部（単著），2018年「「もっとも不気味なもの」としての人間に向けて ——存在と無のはざま——」『桜門論叢』第97巻，日本大学法学部（単著），2018年「技術と存在——ハイデガー「技術への問い」を問う——」『桜文論叢』第96巻，日本大学法学部（単著），2014年「「肉」から他者へ——メルロ＝ポンティからフッサールへ」『桜文論叢』第87巻，日本大学法学部（単著），2013年「心身問題を蒸し返す」『人文研紀要』第77巻，中央大学人文科学研究所（単著），2013年「内在と原初の哲学——他者不在の背理について（フッサールのばあい）——」『桜文論叢』第85巻，日本大学法学部（単著），ほか

特別研究

①専門分野

科学哲学，ロジカル・シンキング

②特別研究の研究領域

科学・技術に関するもの一般，科学史，現代倫理学，ロジカル・シンキング，これらを対象とするものが望ましい。物理学や環境論などでも，哲学的に論じるのであればかまわない。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

必ず，なぜそのテーマにしたのかという点を明確にした上で研究をスタートさせることが必要である。またテーマについて，様々な視点から眺めて検討すること，それを論理的に展開・表現することなどについても指導していく。

④特別研究の進め方

・1～2カ月に1回ペースで面接授業を行う予定です。それ以外は，適宜メールなどを活用して指導します。

・1年次の夏までには研究テーマを設定してもらいます。その後は進捗状況の確認及び修正を行い，各人に合わせて研究を進めてもらいます。

特別研究

①専門分野

現象学を中心とする現代哲学。おもに存在論，他者論や心身問題。

②特別研究の研究領域

哲学的な考察が要求される問題をテーマとし，西洋哲学（おもに20世紀以後の西洋現代哲学）の古典的な文献を題材とした研究が望ましい。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマを選択した動機や問題意識を整理し，その研究にとってどのような文献への参照が必要となるか検討し，基本文献を選択することが必要となる。基本文献の適切な読解を踏まえ，それについて独自に解釈，批判・検討を加えてゆくことが具体的な作業となる。こうして，先行研究との比較・検討を通じて，そのテーマについて独自の見解を論理的に説得力ある仕方で提示できるように指導していく。

④特別研究の進め方

インターネットでの指導・対話を基本とするが，適宜，状況に応じて面接等の機会を設けていく。

- ・1年次の夏休み前までを目途にテーマを決定し，必要な文献を検討，収集していく。
- ・1年次夏休み中にテーマと文献について研究計画を作成する。
- ・2年次前半を目途に研究計画の再確認を兼ねて中間報告を行う。
- ・進捗状況に応じ，適宜，対応を重ねていく。



心理学コース

田中 堅一郎 教授
Tanaka, Ken'ichiro

主な学歴

1985年 日本大学文理学部心理学科卒業
1987年 日本大学大学院文学研究科 博士前期課程心理学専攻修了
1992年 日本大学大学院文学研究科 博士後期課程心理学専攻修了，博士（心理学）取得

主な職歴

1989年 日本学術振興会特別研究員（DC）
1992年 東北女子短期大学専任講師
1994年 常葉学園浜松大学国際経済学部 専任講師
1998年 浜松大学国際経済学部助教授
1999年 広島県立大学経営学部経営学科 助教授
2003年 日本大学大学院 総合社会情報研究科助教授
2007年 日本大学大学院 総合社会情報研究科准教授
2009年 日本大学大学院 総合社会情報研究科教授

著書

1996年 『報酬分配における公正さー社会心理学的考察ー』風間書房（単著），1998年 『社会的公正の心理学 心理学の視点から見た「フェア」と「アンフェア」』ナカニシヤ出版（編著），2004年 『従業員が自発的に働く職場をめざすために』ナカニシヤ出版（単著），2007年 『臨床組織心理学入門 組織と臨床への架け橋』ナカニシヤ出版（編著），2008年 『荒唐する職場/反逆する従業員 職場における従業員の反社会的行動についての心

理学的研究』ナカニシヤ出版，2019年 『産業・組織心理学エッセンシャルズ 第4版』ナカニシヤ出版（編著）

学術論文

1999年 “Judgment of fairness by just world believers.”Journal of Social Psychology Vol.139,No.5, 2000年 「日本語版セクシュアル・ハラスメント可能性尺度についての検討ーセクシュアル・ハラスメントに関する心理学的研究ー」『社会心理学研究』16巻1号, 2002年 「日本版組織市民行動尺度の研究」『産業・組織心理学研究』15巻2号, 2005年 「日本版組織機能障害行動の測定尺度の開発」『経営行動科学』18巻1号, 2007年 「職場の迫害が従業員の職務行動および心理的・身体的側面に及ぼす影響」『産業・組織心理学研究』21巻2号, 2012年 「ジェンダー・ハラスメント測定尺度の等価性の検討ー共分散構造分析による平均構造・多母集団同時分析を用いた検討ー」『応用心理学研究』38巻2号, 2013年 “Organizational citizenship behavior in contemporary workplaces in Japan.”Japan Labor Review, Vol.10, No.3, 2016年 “Impact of gender harassment on job-related behaviors in the Japanese workplace.”『経営行動科学』28巻3号

指導・研究における特色,プロフィール

大学院修了まではもっぱら社会心理学が私の専門領域だったものの，大学の教員になってから職場での心理的問題や組織での従業員の行動といった応用研究に手を染めるようになり，現在はこちらかというと産業・組織心理学が専門である。院生の皆さんには，社会心理学研究での意表を突いた発想や研究方法，そして応用領域としての産業心理学の題材の面白さを知ってもらいたい。「自分の研究テーマは，こんな形ですでに研究されていたのか」「この題材も心理学の研究なの？」「こんな研究テーマもありなんだ」といった発見ができればきっとハマっていくことだろう。

担当科目

人間科学特講，産業・組織心理学特講，調査分析特講，特別研究

特別研究

①専門分野

産業・組織心理学，社会心理学

②特別研究の研究領域

組織や職場での不公正・不公平感の諸要因とその心理学的影響を中心とする研究テーマ。
1. 従業員が職場で行う自発的な役割外行動
2. 公平（あるいは不公平）な処遇が従業員の行動に及ぼす影響
3. 公正な人事評価を阻む心理的バイアスの種類とその対処方法（多面的観察評価法など）
4. 職場における従業員の問題行動（職場いじめ，セクシュアル・ハラスメントを含む）
5. リーダーシップについての心理学的研究

③特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマがどのようなものであっても，心理学の基礎知識や基本的な研究方法の習得は欠かせません。したがって，2年間はだいたい以下のような計画で研究を進めるとよいでしょう。1年次の前半では，研究テーマに必要と思われる心理学研究法を学習してください（特に，学部で心理学を専攻しなかった方は必須です）。後半では，自分の研究テーマに関連する論文の収集を行ってください。論文の入手法も適宜教えます。論文の収集は，研究テーマに関連した数多くの文献にあたることが望ましいでしょう。研究テーマに問題や修正が生じたときには，個人面談か随時e-mailで相談しながら進めます。1年次までにやるべきことはかな

り多く大変ですが，何とか乗り切ってください。
2年次の前半では，具体的な研究計画の作成と実験・調査などのデータ収集を行ってください。後半でデータの分析を行い，論文執筆に取りかかります。この際，論文の書き方については，坂口典弘・山本健太郎『心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで』（講談社）が必読です。データ分析については，論文作成に必要な統計的手法を自分で修得しなければなりません。論文作成の過程では，書式や分析方法の細かな指導を行うつもりです。

④特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが，夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導も実施したいと思います。可能ならば2泊3日のゼミ合宿で研究発表会を実施したいと考えています。計画の詳細は以下のとおりです。
1年次（前半）：具体的な自分の研究テーマの決定。研究方法を決め，研究方法についての学習。同時に，関連文献の収集。
1年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。
2年次（前半）：研究テーマと研究計画の再確認（計画の一部修正も可）。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。
2年次（夏期）：ゼミ合宿の開催。中間発表を行う。
2年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック，最終稿作成，修士論文の提出。



心理学コース

和田 万紀 教授
Wada, Maki

主な学歴

1982年 大阪大学人間科学部人間科学科卒業
1985年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了
1988年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得退学
1991年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了文学博士学位取得

主な職歴

1988年 日本大学文理学部助手
1991年 山梨英和短期大学情報文化学科専任講師
1995年 山梨英和短期大学情報文化学科助教授
1999年 浜松大学国際経済学部助教授
2001年 日本大学法学部助教授
2005年 日本大学法学部教授
2011年 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2014年 「教育心理学」弘文堂（編者，分担執筆），2014年 「心理学」弘文堂（編者，分担執筆），他

学術論文

単著
2014年 「大学の教養教育としての心理学教育の展開」 桜文論叢 第87巻 pp.1-21.
2012年 「学習者の生理的指標による学習活動の評価の可能性ー免疫グロブリンAの分泌を指標にしてー」 桜文論叢 第82巻 Pp.1－12.
2009年 「Secretory immunoglobulin A decreases during waiting stress independently of cardiac functions in college students.」日本大学法学部創設120周年記念論文集 vol.3 Pp.21－32. 他

特別研究

①専門分野

社会心理学，教育心理学

②特別研究の研究領域

自己と対人関係，不安，情動と行動などをキーワードとして，心理学を基本とした研究領域を対象とします。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

自分が何に興味があり，何をしたいのかを，まず明確にすることから始めます。その後，それをどのように心理学の方法で行うのか，を考えます。そしてそれを具体的に研究として進めるために，必要な資料，文献等の講読から，実際にデータの収集，整理，分析を行い，考察を行います。論文としてまとめるという作業も大事にしたいと思います。

共著

2017年 「看護の挫折体験の意味づけと自己変容を通した適応様式」 応用心理学研究 第42巻 第3号 pp.259-260.
2016年 「Abdominal Circumference Correlates with Postural Sway of the Antero-Posterior Axis in Pregnant Women」.Mathews Journal of Gynecology & Obstetrics. 1(1), 004：Pp.1-6. 2016年 「人間科学における法 ー大学の教養教育における心理学教育の可能性ー」 桜文論叢 第91巻 Pp.317－337.
2015年 「Sweet taste threshold for sucrose inversely correlates with depression symptoms in female college students in the luter al phase.」Physiology & Behavior, 141, Pp.92-96. Elsevier. 他

指導・研究における特色,プロフィール

自分の興味や関心ある事柄を，心理学という大きな枠組みの中で形あるものとしていく，という取り組みを行います。したがって，心理学の方法や手続きについての基本をまず習得することを目標とします。それによって，研究として形あるものにする楽しみを感じることができるよう に指導をしたいと思っています。

担当科目

社会心理学特講，特別研究



心理学コース

木村 敦 准教授

Kimira, Atsushi

主な学歴

2002年 日本大学文理学部心理学科卒業
2004年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了修士(心理学)
2007年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了博士(心理学)

主な職歴

2007年 (独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所ボスドク研究員
2010年 東京電機大学情報環境学部情報環境学科助教
2011年 東京電機大学大学院情報環境学研究科助教
2016年 日本大学危機管理学部危機管理学科准教授
2019年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2007年「知覚と美的経験: 美をみる」野口薫 (編)『美と感性の心理学: ゲシュタルト知覚の新しい地平』富山房インターナショナル (分担執筆), 2010年「Stereotypes toward food and eating behavior」E. L. Simon (Ed.) *Psychology of stereotypes*. Nova Science Publishers (分担執筆), 2011年「食と消費者行動」日下部裕子・和田有史 (編)『味わいの認知科学』勁草書房 (分担執筆), 2011年「Gender-based food stereotypes among young Japanese」V. R. Preedy (Ed.) *Handbook of Behavior, food and nutrition*. Springer (分担執筆), 2013年『多色配色の色彩調和に関する実験的研究』風間書房 (単著), 2017年「食行動に影響を及ぼす社会心理学的要因」今田純雄・和田有史 (編)『食行動の科学: 「食べる」をよみとく』朝倉書店 (分担執筆), 2018年「集合行動」岡隆・坂本真士編『心理学のポテンシャル 社会心理学』サイエンス社 (分担執筆)

学術論文

2012年「Dish influences implicit gender-based food stereotypes among young Japanese adults」*Appetite*, vol.58 (共著), 2013年「カラーバリエーションが若年女性における衣服選択の意志決定プロセスに及ぼす影響」『日本色彩学会誌』第37巻1号 (共著), 2013年「Memory color effect induced by familiarity of brand logos」*PLoS ONE*, vol.8 (共著), 2014年「Effect of risk information exposure on consumers' responses to foods with insect contamination」*Journal of Food Science*, vol.79 (共著), 2014年「ICTを用いた協働自律学習プロセスの可視化がPBL成果のクオリティ向上に及ぼす効果」『ICT活用教育方法研究』第17巻 (単著), 2018年「Effects of perceived quality of container on water and snack intake and dyadic communication」*Food Quality and Preference*, vol.64 (共著), 2019年「SNSのプライバシー設定行動と社会的認知との関係についての調査研究」『危機管理学研究』第3巻 (単著), 他

指導・研究における特色, プロフィール

これまで食品科学や情報工学, 危機管理学と様々なフィールドの中で研究者・実務家と協働してきた経験を活かし, 心理学の発想や方法論が現実場面の問題解決にどのように役立つかについても研究指導を通じてお伝えできればと思っています。研究の成果だけではなく, 研究プロセスも含めて大学院での学びの財産となるよう, ひとつひとつの研究ステップを大切に一緒に進めていきたいと思います。

担当科目

学校教育学特講, 特別研究

特別研究

①専門分野

認知心理学, 社会心理学, 色彩心理学, 教育工学

②特別研究の研究領域

「人間の認知特性を踏まえた情報コミュニケーション」と, その応用として以下のような領域に関する研究課題を扱っています。
(1) リスクコミュニケーション
(2) 消費者行動・商品選択
(3) インタフェースデザイン
(4) 学習支援・教授法
(5) 食卓環境デザイン

③特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは大学院での目標や研究興味, 現状の知識や技能について個別にヒアリングし, 具体的な研究計画を自分で立案できるよう必要なサポートをしていきたいと思います。どのような研究課題を行う場合も, 先行研究の収集, 適切な心理学的研究法や統計解析の選択, 論文執筆・プレゼンテーション作成スキルは不可欠ですので, これらのリサーチスキルの指導を中心に行います。また, 可能な範囲で国内外の学会や研究集会への参加も奨励します。なお, 実際に作業する上ではワープロ, 表計算, プレゼンテーション, 描画・画像編集などのソフトウェアを使用します。これらのソフトウ

ェアの基礎的な操作は入学時までにできるようになっていることが望ましいです。

④特別研究の進め方

受講者の学修環境に応じて, ネットワークや面談を活用しての指導を行います。また, 夏期・春期休暇期間などを利用し, 各自の研究に関する面談指導やグループ討論, プレゼンテーションなども適宜実施したいと考えています。具体的なスケジュールについては個別に相談の上検討します。
1年次前期: 研究課題の候補立案。先行研究の収集・整理。研究方法の習得。
1年次後期: 研究課題の決定。研究計画作成。倫理審査書類の実施。経過発表。
2年次前期: 実験・調査の実施。データ解析。経過発表。
2年次後期: データに基づく考察と, 必要に応じて追加のデータ取得。修士論文の執筆・提出。最終発表。



教育学コース

古賀 徹 教授

Koga, Toru

主な学歴

1993年 日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程単位修得満期退学

主な職歴

1995年 日本学術振興会特別研究員PD
1997年 日本大学文理学部教育学科助手
2007年 日本大学通信教育部准教授
2011年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授
2012年 日本大学通信教育部教授・大学院総合社会情報研究科教授

著書

2010年『海を渡った柔術と柔道—日本武道のダイナミズム』青弓社 (共著), 2006年『サンボーユーラシアに生まれた格闘技』東洋書店, 2005～2007年『教育刷新委員会/教育刷新審議会会議録』第1巻～13巻・岩波書店 (共著), 2004年『日本近代教育史料大系・附巻 (目録解題編)』龍溪書舎, ほか

学術論文

2012年「『フィンランドの教育』に関する研究の限界と『フィンランド』が抱える問題」『研究紀要』第25号, 2000年「明治維新时期における学校教育と神仏分離—廃仏毀釈と国学思想, 教育の近代化との関係に注目して」『日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要』第59号, 1994年「東京師範学校附属小学教則と米国サンフランシスコ公立学校カリキュラムとの比較考察」『教育学雑誌』第28号, 1993年「下関償金対日返還運動における「教育費」充当論」『日本の教育史学』第36集, 1991年「マリオンM.スコットと日本の教育」『比較教育学研究』第17号, ほか

特別研究

①専門分野

国際教育, 学習論, 教育方法論

②特別研究の研究領域

1. 教育・学習に関する研究 (例: PISA型学力と新しい学力観, など)
2. 制度・歴史的研究 (例: 日米における教員養成カリキュラムの比較研究, など)
3. 地域における特色のある教育実践や教育政策 (例: 横浜市における青少年ボランティア活動・リーダーシップ研修の目的および効果, など)

③特別研究の指導及び研究上のポイント


研究テーマの設定と, その考察により「何を明らかにしたいのか」を固めること。期間内に「どこまで明らかにできるか」「どのような方法で導き出せるのか」という方法論・評価の視点や, 先行研究の探索が重要です。「優れた先行研究」を見出すこと, ヒントとなる研究を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。資料の読解力, 論理の構成や文章表現, 調査の方法に慣れるためには研究書 (文献) を読むことをおすすめします。

指導・研究における特色, プロフィール

フィンランド等の北欧福祉国家社会における学習観・生涯学習観について継続的な調査・研究を行っています。ユーラシア地域における生活文化・宗教の影響関係を調査し「教育」とは直接に関係がないようなスポーツ史に関する本も刊行しました。しかしその研究の方法は共通しています。多角的な比較の視点, 社会構成を理解する視点をもつこと。資料や文献を選び, 分析する視点をもつこと。研究の視点を修得する楽しさを実感していただきたいと考えています。

担当科目

生涯学習論特講, 特別研究



教育学コース

柴山 英樹 准教授
Shibayama, Hideki

主な学歴

2000年3月 日本大学文理学部教育学科卒業
2002年3月 日本大学大学院文学研究科博士前期課程教育学専攻修了
2005年3月 日本大学大学院文学研究科博士後期課程教育学専攻満期退学
2009年3月 博士（教育学）学位取得（日本大学）

主な職歴

2006年4月 聖徳大学人文学部専任講師
2011年4月 聖徳大学児童学部准教授
2014年4月 日本大学理工学部准教授
2016年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2009年（共著）『教育人間学の展開』北樹出版，2009年（共著）『現代学校教育論』日本文化科学社，2011年（単著）『シュタイナーの教育思想－その人間観と芸術論－』勁草書房，2012年（共著）『博物館教育論－新しい博物館教育を描きだす－』ぎょうせい，2013年（共著）『言語と教育をめぐる思想史』勁草書房，2016年（共著）『現代教職論』弘文堂，2016年（共著）『道徳教育の理論と方法』弘文堂，2017年（共著）『哲学する道徳－現実社会を捉え直す授業づくりの新提案』東海大学出版部，2018年（共著）『＜新訂＞教職入門－未来の教師に向けて』萌文書林，2019年（共編著）『言葉とアートをつなぐ教育思想』見洋書房，

学術論文

2005年（単著）「ルドルフ・シュタイナーにおける『身体』・『リズム』・『教育』の関係をめぐる－エミール・ジャック＝ダルクローズとの比較考察を通じて－」教育哲学会『教育哲学研究』第91号，2005年（単著）「シュ

タイナーの色彩論に関する思想的考察」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第14号，2008年（単著）「シュタイナーの人間観に関する考察－19世紀自然科学との対峙という視点から」臨床教育人間学会『臨床教育人間学3 生きること』，2014年（単著）「中学校の道徳教育における教材研究と指導方法に関する一考察－小学校読み物資料を中学校で読み直すための試案－」日本大学教育学会『教育学雑誌』第50号，2016年（単著）「シュタイナーの系統発生史と「教育」の関係－「個体」と「想像力」のあり方に着目して」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第25号

指導・研究における特色, プロフィール

現在の教育に関する課題を把握するためには，距離を置いて考えてみる必要があります。その一つの方法が歴史的に考察することです。もう一つは，他の事例や海外の事例などと比較するという方法です。様々な文献や資料を読みながら，私たちが問うべき課題を明確にしていきたいと思います。

担当科目

生徒指導論特講，特別研究



教育学コース

時田 学 准教授
Tokita, Gaku

主な学歴

1988年3月 日本大学文理学部心理学科卒業
1988年4月 日本大学大学院文学研究科博士前期課程修了
1996年3月 日本大学大学院文学研究科博士後期課程修了

主な職歴

1996年4月 日本大学文理学部助手
2000年4月 日本大学商学部専任講師
2009年10月 千葉大学教育学部非常勤講師（2014年3月迄）
2013年4月 日本大学商学部准教授
2017年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2003年，「心の科学」，東洋経済新報社，（共著）．2003年，「初めての教育心理学」，八千代出版，（共著）．2014年，「心理学概説」，啓明出版，（共著）．2014年，「教育心理学」，弘文堂，（共著）．

学術論文

2009年，「大学としてのコミュニティへの参加とその可能性」，商学研究，25，21-40，（単著）．2009年，「平均顔を用いた実験用日本人表情刺激作成の試み」，日本顔学会誌，9，1，53-70（共著）．2012年，「保育者の専門性を高めるロール・プレイング活用－その意義と研究成果－」，植草学園大学研究紀要，4，27-36，（共著）．2014年，「認知症介護における研修プログラムとしてのロール・プレイングの可能性」，商学集志，84，2，39-57，（単著）．

指導・研究における特色, プロフィール

自らの気づき・興味などを起点として，それが単なる良い発想（思い付き）や感じた個人的体験ではなく，他人と共有することのできる研究課題として適切か，という観点からまず検討を加えていきます．その後，対象とした研究課題を明らかにするには，どのような対象集団（個人）に，どのような方法でデータを収集するか，という点を具体的に明らかにしていき，実際にデータ収集を行います．それら収集されたデータについて，適切な方法でデータ処理（解析）を行い，結果を整理しつつ，研究課題との関連性を考察しながら論文執筆を行っていただきます．また，論文執筆過程の中で，可能な限り学術的観点からの評価を受けることを目標として指導を実施致します．

担当科目

教育心理学特講，特別研究

特別研究

①専門分野

教育心理学，ロール・プレイング・コミュニケーション，生理心理学

②特別研究の研究領域

「人間の行動」を対象とした「心理学的」な研究であることと，何らかの形で「教育的」な要素があることが望ましいと考えます。この場合の「教育的」とは比較的広範囲に考えていただいて構いませんので，所謂学校教育ということにとどまらず，職場内の教育や成人を対象にした教育，地域の中での教育（子育て）なども対象となると考えます。

③特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題は基本的に教育心理学的課題に関連する部分が多くなると考えられますが，どんな研究課題を選択されたとしても，論文（科学的論文）を執筆・完成することが最終的な目標になります。そのためには，自らの研究する研究課題を大切に吟味することが必要になります。吟味するためには，設定した課題について，関連すると考えられる資料を十分に集めることは勿論のこと，その資料を基に改めて研究課題について詳細に検討することは必要不可欠なことになります。それらの資料は書籍にとどまらず，その分野の専門的な論文を読みこなすことも求められます。またその研究課題の解明のためには，現実世界の中で課題解決に適切なデータを収集し，収集されたデータを基に解析し，結果を研究課題と検討し，解釈することができなくてはなりません。そのためには，心理学の各分野の知識はもちろん，統計的な知識も重要となると考えます。そこで通信制大学院ではありますが，メールのやり取りだけではなく，リ

アルなフィールドの中で様々な場面を設定し，必要な研究指導を実施致しますので，予定の調節など必要な調整をお願いします。実際に場所と時間を設定して，面接・サブゼミナール（基礎学習のため学部ゼミナールへの出席）・合同ゼミナール・合宿を実施致しますので履修者の皆様の積極的な参加を求めます。

④特別研究の進め方

- ①1年次前期 研究課題の設定に必要な展望的研究，先行研究・関連資料等の資料収集，研究方法の検討。
- ②1年次夏季 面接・ゼミナール合宿等で，研究課題についての具体的実施計画の発表と検討。
- ③1年次後期 必要な調査・実験などの計画と予備調査などの実施，資料収集継続。
- ④2年次前期 研究課題・研究計画の最終調整と調査・実験などのデータ収集。
- ⑤2年次夏季 データ分析とゼミナール合宿での中間発表。可能であれば論文執筆。
- ⑥2年次後期 分析された結果についての検討と論文執筆，原稿チェック，最終稿作成，論文提出。



医療・安全学コース

荒関 仁志 教授
Araseki, Hitoshi

主な学歴

1980年 日本大学理工学部物理学科卒業
1985年 日本大学大学院理工学研究科後期博士課程物理学専攻修了
理学博士学位取得（日本大学）

主な職歴

1986年 日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社入社
1991年 日本大学短期大学部工業技術学科助手
1992年 日本大学短期大学部工業技術学科専任講師
1999年 日本大学大学院総合社会情報研究科専任講師
2002年 日本大学大学院総合社会情報研究科助教授
2007年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授
2015年 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

1995年 『プログラミング演習C言語』ソフトバンク株式会社（単著）

学術論文

2012年 「Effectiveness of Scale-Free Properties in Genetic Programming」, The 6th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems, and The 13th International Symposium on Advanced Intelligent Systems
2013年 「Genetic Programming with Scale-Free Dynamics」 Intelligent EVOLVE – A Bridge between Probability, Set Oriented Numeric, and

Evolutionary Computation IV, Advances in Intelligent Systems and programming
2018年 「拡張FRAMモデルと統計モデルによるリスク管理手法の提案～小規模事業所のリスク管理解析～」, 第4回日本医療安全学会学術総会
2018年 「リスク管理のためのFRAM(機能共鳴分析手法)の確率表現について」, 信学技報 118(370) 13-16

指導・研究における特色, プロフィール

従来の安全対策では、事故や事件が起こった場合に、それを解析し同じ事故が起こらないように対策を考えるのが一般的であった。しかし、最近、安全過程からのリスク予測を行うことを目的に「レジリエンスエンジニアリング」が提案されている。この手法では安全過程と事故過程は同じ過程である（安全と不安全の等価性）と考え、安全過程における不安全行動の発見や予測を行うことが「安全対策」であると定義する。しかし、この不安全行動の発見手法は未だ提案されていない。
本研究室では、この不安全行動を解析する手法であるFRAM（機能共鳴分析手法）と確率モデルである「ベイジアンネットワーク」を関連付けることで、安全過程における不安全行動の発生確率を計算できることを報告している。この手法を使うことで、例えば安全過程が担保されている組織にあっても、不安全要素の発生確率を計算でき、リスク管理に利用できると考える。

担当科目

安全学特講、統計基礎Ⅰ・Ⅱ、ゲーム理論、特別研究



医療・安全学コース

泉 龍太郎 教授
Izumi, Ryutaro

主な学歴

1985年 九州大学医学部卒業
1992年 九州大学大学院医学系研究科博士課程内科学専攻修了医学博士

主な職歴

1985年 九州大学医学部附属病院 内科研修医
1992年 創価大学 生命科学研究所 助手
1993年 勸宇宙環境利用推進センター 研究員
1998年 宇宙開発事業団 宇宙環境利用研究センター 研究員
2003年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 客員教授（～2009年）
2003年 宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術部（副）主任研究員
2009年 日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター 専属産業医
2012年 宇宙航空研究開発機構 招聘研究員
2013年 日本大学大学院総合社会情報研究科 教授

著書

1998年『宇宙医学・生理学』社会保険出版社(共著)、2000年『21世紀に期待される技術～その将来展望 第3巻 医療・健康、高齢化社会への対応技術』日本ビジネスレポート社(単著)、2006年『宇宙環境利用と人類の将来（Ⅰ）－いきものの星・地球－』宇宙航空研究開発機構(共著)、ほか

学術論文

2004年『Gの感覚』体育の科学, vol.54, 546（単著）、2004年『STS-107ラットサンプルシェア研究』日本マイクログラビティ応用学会誌, vol.21, 26（共 著）、2009年“Development of basic technologies for drop-tower experiments on vertebrates” Biol. Sci. Space.vol.23, 85（共著）、2009年『日本における宇宙医学研究の現状とJAXA宇宙医学生物学研究室の取り組み』日本マイクログラビティ応用学会誌, vol.26, 269（共著）、ほか

指導・研究における特色, プロフィール

これまでの臨床医、基礎医学研究、有人宇宙技術開発に関わる研究、産業保健衛生活動の経験を通じ、身近に感じる疑問が大きな研究課題に繋がり、それが医学・生命科学研究の発展に貢献し、まだ同時に自分自身の知識と経験を深めることを実感している。その際大切なことは、基礎的な知識や先行研究を踏まえることである。

担当科目

健康科学特講、環境生理学特講、人間工学特講、特別研究

特別研究

①専門分野

健康科学、内科・産業医学、宇宙航空環境医学、生命科学、人間工学

②特別研究の研究領域

ヒトの健康の向上に関し、医療・福祉、産業保健衛生等、及び生命科学に関わる分野。例えば以下のような研究課題が考えられる。
1）健康診断データに基づいた、健康度の判定
2）QOL向上のための工学的ツールの研究開発、社会制度の検討等
3）職場や日常生活におけるストレス度の判定、及びその軽減策の検討
4）医療に関連する各診療・治療ガイドラインの、実際の臨床応用に関わる問題点
5）治療やリハビリに対する本人の認識と意欲、及びその治療効果との関連
6）医療・介護現場における各種の手技のリスク・アセスメント、その対策と優先順位の考え方
7）中長期休職者が職場復帰する際の問題点と、その対応策の検討（身体・精神疾患の両者）
8）長期宇宙滞在等の極限環境における心身の問題点とその対策法の検討
9）生体・細胞の形態・恒常性維持に関わる物理化学的法則の検討

③特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究課題を設定するにしても、人体の生理・生化学の基礎知識を踏まえることが重要です。医療分野では各種の診療に関し、ガイドラインが提唱されていますが、その基となっている研究・文献まで遡

て考察することも求められます。臨床で現場を経験された方は、その時の体験や疑問に感じたことを出発点にすると良いと思います。ヒトを対象とした研究では倫理審査が必要となる場合がありますが、かなりの時間と労力を要するので、早めの準備が必要です。

④特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが、夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導も実施します。また、夏期の早い時期に2泊3日のゼミ合宿を行い、研究発表を実施すると同時に、ゼミ生間の親睦を深める予定です。計画の詳細は以下のとおりです。
1年次（前半）：具体的な自分の研究テーマ・方法の決定と、研究方法についての学修。同時に、関連文献の収集。
1年次（夏期）：ゼミ合宿への参加、可能な範囲で研究計画の発表を行う。
1年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。
2年次（前半）：研究テーマと研究進捗状況の再確認（計画の一部修正も可）。
2年次（夏期）：ゼミ合宿で中間発表を行う。
2年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック、最終稿作成、修士論文の提出。



スポーツ科学コース

鈴木 典 教授

Suzuki, Tsukasa

主な学歴

1980年3月 日本大学文理学部体育学科卒業
1983年3月 日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了（文学修士）

主な職歴

2002年2月 日本大学松戸歯学部助教授：保健体育
2008年4月 日本大学松戸歯学部教授：総合口腔医学講座
2011年4月 日本大学松戸歯学部教授：教養学講座
2016年4月 日本大学スポーツ科学部教授
2017年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2012年『高地トレーニングの実践ガイドライン-競技種目別・スポーツ医学的エビデンス-第3章スキー競技クロスカントリーの高地トレーニング』（共著）、2008年『コーチと選手のためのコーチング戦略-第2章コーチング哲学とコーチング行動-コラム現場に役立つスポーツ科学』（共著）

学術論文

2013年『Motion analysis of cross-country skiing at the 21st Olympic Winter Games Vancouver 2010 and all-Japan ski championships 』Science and Nordic Skiing 11, 95-101（共著）. 2012年『高地トレーニング合宿におけるトレーニング効果と圧受容器反射機能の関係』日本衛生学雑誌67-3, 417-422（共著）. 2008年『特集スピードを生み出すからの動き クロスカントリースキー-腕を使って速く滑る-』体育の科学58-11, 788-793（単著）.

指導・研究における特色, プロフィール

コーチング学は個別科学領域における研究成果を体育・スポーツの指導に適用する実践性の高い学問といえる。研究を進めるに際し、アスリートやコーチとの対話等、スポーツ実践場面との連携が不可欠であり、そこから新たな問題意識や研究テーマが導き出されることも多々みられる。また、競技スポーツ（アスリートの競技力向上に関わる実践指導）だけでなく、健康スポーツやレクリエーションなスポーツ活動における実践指導の検討も、重要な研究テーマと考えられる。

担当科目

コーチング学特講，特別研究

特別研究

①専門分野

コーチング学

②特別研究の研究領域

コーチング学とは「体育・スポーツの指導実践に関する研究」を行う学問分野であり、個別科学の研究成果を評価し統合して、実践指導に活かす役割が求められます（朝岡正雄：体育学におけるコーチング学の役割、コーチング学研究29, 5-11, 2016）。このことから、先ず自身のスポーツキャリアを振り返り、先行研究を精査した上で体力面、技術面、心理面等、実践指導に関わる問題を提起します（研究の仮設を組み立てる）。その問題を解決するための研究方法を運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等の個別科学領域から選択・実践し、得られた研究成果を実践指導に適用する方法について、さらに検討を進めるのがコーチング学の研究領域、および研究の進め方になります。

④特別研究の指導及び研究上のポイント

コーチング学研究のポイントは「研究成果を実践指導に適用」するところまで、検討を進めることが必要であり、例えば研究成果をアスリートやコーチに解り易く（運動イメージとの照合が容易な方法で）フィード

バックするまで、研究を継続することが求められます。また、各研究段階では自身のスポーツキャリアだけでなく、先行研究を精査した上で問題を提起すること、個別科学領域における研究方法やデータ処理方法を学修すること、研究成果を実践指導に活かす方法（フィードバックシートの作成方法、動画を用いたフィードバック方法等）を学修すること等が課題となります。

④特別研究の進め方

基本的にはレポート形式、面接指導、ゼミ生間の研究発表やプレゼンテーション等により、研究を進める意向です。また可能な範疇で夏季、冬季、春季休暇期間を利用し、個別科学領域における研究方法の演習も実施したいと考えています。
1 年次前半は先行研究（文献）収集と研究テーマの決定、研究方法の検討、夏季は研究方法の演習、基本的な統計処理方法の学修、研究計画の発表、後半から2 年次前半は実験、測定、調査等、研究の実施（データ収集）、およびデータ分析、夏季の中間発表を経て、後半は論文執筆（修士論文提出）といった研究の進め方を想定しています。

スポーツ科学コース



布袋屋 浩 教授

Hoteya, Kou

主な学歴

1990年 日本大学医学部卒業
1996年 日本大学大学院医学研究科博士課程修了，学位取得

主な職歴

1990年6月 日本大学医学部整形外科教室入局，日本大学板橋病院助手
1991年1月 駿河台日本大学病院助手
1997年7月 本庄総合病院整形外科医長
1999年7月 駿河台日本大学病院助手
2001年1月 駿河台日本大学病院救命救急センター医長
2001年4月 駿河台日本大学病院整形外科医局長
2002年5月 本庄総合病院整形外科部長
2014年7月 本庄総合病院副院長
2016年4月 日本大学スポーツ科学部教授
2017年4月 日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2001年「低反応レベルレーザーと直線偏近赤外線」小川節郎編，真興交易（株）医書出版部（共著），2000年「半導体レーザーによる疼痛治療ガイドブック」創物修編，メジカルビュー社（共著），1994年「新図説臨床整形外科講座10 骨系統・代謝疾患」山本吉蔵編，メジカルビュー社（共著）

学術論文

2019年「大学陸上競技部員におけるスポーツ傷害の疫学的研究」日本大学スポーツ科学研究;第3集:11-17，2018年「スポーツの世界記録における男女比は一定？」パリティvol.33/No.8：58-59，2016年「男子プロゴルフアーにおける障害・外傷とその管理」，臨床スポーツ医学Vol.33，No.3;256-262，2012年「小児疾患の診断治療基準：骨端症」，小児内科，Vol.44;840-841，2011年「Association between intercondylar notch narrowing and bilateral anterior cruciate ligament injuries in athletes」，Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery，Mar.131;371-376，2008年「プロゴルフアーにおけるスポーツ障害の管理について」，本市市児玉郡

特別研究

①専門分野

スポーツ医学，整形外科学

②特別研究の研究領域

競技スポーツにおけるケガや故障，すなわちスポーツ外傷・障害について，その競技特殊性を踏まえて，それらの発生原因，病態および予防対策をより具体化し明瞭化することで，結果的に競技力向上に役立てます。そのためには正しいフォームとはどういったものかを解明し体系づけることが大変重要です。
さらには，近年の超高齢化社会における一般スポーツの位置づけとして，健康寿命をのばすためには，つまり筋肉・骨・関節といった運動器の障害により生じる寝たきりや要介護状を改善・予防するためには，スポーツがどのように役立つのか，われわれの日常生活におけるスポーツの役割や有用性について研究します。

医師会誌，No.57;45-48，2007年「スポーツによる両膝ACL損傷例の類間窩横径比に関する検討」，膝31(2);253-257，2004年「スポーツの痛みとレーザー治療」ペインクリニック，25(10);754-763，2003年「スポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアに対する低反応レベルレーザー治療」，整形・災害外科，46(10);1195-1199，2003年「低反応レベルレーザーによる腰痛治療」骨・関節・靱帯16(8);957-961，2002年「新鮮膝ACL損傷に対する保存療法と一次修復術のMRIによる評価」日大医学雑誌61(11);387-389，2002年「整形外科領域の痛みに対する低反応レベルレーザー治療の効果」整形外科最小侵襲手術ジャーナル，Vol.23;9-14，1999年「スポーツ外傷による膝ACL・PCL損傷を含む複合靱帯損傷の治療について」診断と治療社，Vol.20;44-47，1995年「運動強度の違いが成長期ラットの骨成長に及ぼす影響-骨強度からの検討-」，日大医学雑誌54(12);756-764，1995年「最近経験したスポーツによるSLAP Lesion」，臨床スポーツ医学12;449-454，1994年「腰痛を有するスポーツ選手の体幹筋力トレーニングについて」，日本整形外科スポーツ医学会雑誌，14;377-386，1994年「パンチによるMP関節包断裂の2例」，関東整形災害外科学会誌25;355-359，1992年「骨盤異常に対する三次元表面再構成法（3D-CT）の有用性」，埼玉医学会誌27;399-404，2019年「大学陸上競技部員におけるスポーツ傷害の疫学的研究」日本大学スポーツ科学研究第3集:11-17，2018年「スポーツの世界記録における男女比は一定？」パリティvol.33/ No.08:58-59

指導・研究における特色, プロフィール

日本大学医学部を卒業後は整形外科を専攻しました。大学病院ではスポーツ医学研究班に所属し，テニス，大相撲，ゴルフ，バレーボール，陸上競技など様々な競技のプロやトップレベル選手の治療に携わり，またプロ野球やアメリカンフットボールのチームドクターも務めました。その後一般総合病院へ異動してからも，小児から高齢者まで幅広い年齢層の様々な一般整形外科診療と同時に，スポーツドクターとして青少年からプロレベルに至るまで多種多様なスポーツ外傷・障害の診療をしてきました。また2000年に日本プロゴルフツアー機構指定医師を拝命し，主に男子プロゴルフアーに対する障害管理および予防指導を現在も継続して行っております。
そして2016年に新設されたスポーツ科学部においては，これらの経験を生かしてスポーツ医学を中心にスポーツ生理学・機能解剖学・救急処置法・ドーピング論などを担当しております。

担当科目

スポーツ医学特講，特別研究

③特別研究の指導及び研究上のポイント

スポーツ医学の分野においては，人体のしくみや運動生理，機能解剖の基礎的知識を理解しておくことが重要です。そして競技種目によってスポーツ外傷や障害の内容がかなり異なるので，競技特殊性を十分理解する必要があります。また競技レベルや年齢，性別，そして競技者が目指している目標によってもスポーツ医学のかかわり方が大きく違ってくるため，それらの特徴も十分に考慮しながら，競技力向上とスポーツ医学の関係について指導・研究していきます。

④特別研究の進め方

基本的にはレポート形式やネットワークを用いた対話形式で研究を進めます。時にはフィールドワークやメディカルマネージメントとしてグラウンドやフィールドあるいはゴルフ場などで，スポーツ現場におけるメディカルケアに帯同し観察したり，選手自身へのアンケートや聞き取りをしたりして調査研究を行います。



スポーツ科学コース

種ヶ嶋 尚志 准教授
Tanegashima, Hisashi

主な学歴

1999年 日本大学文理学部 卒業
2007年 聖徳大学大学院臨床心理学研究科 博士後期課程
満期単位取得退学
2007年 博士（心理学） 学位授与（聖徳大学）

主な職歴

1999年 日本大学文理学部体育学研究室 副手
2002年 慶應義塾大学体育研究所 非常勤講師
2004年 千葉県立柏児童相談所 心理判定員（嘱託）
2005年 医療法人悠希会 心療内科 心理カウンセラー（非常勤）
2007年 栃木県宇都宮市教育委員会スクールカウンセラー
2008年 東京都公立学校スクールカウンセラー
2008年 東洋大学文学部 非常勤講師
2009年 埼玉県公立学校スクールカウンセラー
2011年 大東文化大学スポーツ・健康科学部 特任講師
2014年 日本大学工学部総合教育 准教授
2016年 日本大学スポーツ科学部 准教授
2017年 日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2012年1月、『こころへのアプローチ』田研出版株式会社（共著）
2015年12月、『クローズアップ「健康」』福村出版（共著）

学術論文

- 2015年9月，「運動部経験者のライフスキルとメンタルヘルス関連要因の検討」，日本大学工学部紀要57
- 2013年9月，「男性中高年ボディイメージに関する研究」，日本大学工学部紀要55

- 2013年3月，「女性中高年ボディイメージの視覚的評価からみた心理的ストレスと生活習慣に関する研究」，大東文化大学紀要51
- 2012年2月，「青年期後期における完全主義がアイデンティティ形成に与える影響」，桜文論叢82
- 2010年3月，「競技不安を訴えて来談したスポーツ選手との認知療法によるカウンセリング」，スポーツ心理学研究37
- 2007年9月，「スポーツ選手の競技不適応に関する臨床心理学的研究」，聖徳大学 博士論文
- 2007年9月，「スポーツ選手の完全主義と競技不適応についての検討」，ヒューマン・ケア研究8
- 2007年8月，「スポーツ競技者がもつ完全主義とソーシャルスキルがバーンアウトに及ぼす影響」，心理臨床学研究25
- 2006年3月，「スポーツ選手のネガティブな信念と競技不安およびバーンアウトとの関係について」，応用心理学研究31
- 2006年3月，「テニス選手の不適応と完全主義及びソーシャルスキルとの関連」，明星大学健康・スポーツ科学研究紀要1
- 2005年12月，「陸上競技選手のバーンアウトと完全主義及びソーシャルスキルとの関連」，陸上競技研究63
- 2005年3月，「テニス選手における競技不安とIrrational beliefとの関係」，テニスの科学13
- 2002年3月，「テニスのサービスにおける主観的努力度がパフォーマンスに与える影響」スポーツ方法学研究15

指導・研究における特色, プロフィール

これまで臨床心理学・スポーツ心理学を学び、また心理カウンセラーとして児童・生徒や患者、アスリートと接する体験を通して、人の心理、特に深層心理を探究することの興味深さと人を理解するうえでの心理学の知識の必要性を実感して参りました。また、人が自分自身の持つ力を十分に発揮し、より豊かに生きるための心理学とは何かを模索してきました。心理学の楽しさ、その知識の有用性を伝えたいと思っています。

担当科目

スポーツ心理学特講，特別研究

特別研究

①専門分野

スポーツ心理学，臨床心理学，教育心理学，応用健康科学

②特別研究の研究領域

スポーツ競技者のパフォーマンス向上に対する心理（信念体系など）が及ぼす影響についての研究，幼少期の愛着関係が及ぼす成人における問題行動や精神症状などへの影響・関連についての検討など。
1）スポーツ競技者のストレス度とパフォーマンスの関連性の検討
2）スポーツ競技者の信念体系が及ぼす勝敗への影響の調査研究
3）幼少期の養育者との関係性と成人の問題行動の関連性の検討
4）ボディイメージとメンタルヘルス関連要因の研究
5）変性意識状態とマインドフルネスとの関連

④特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究テーマにするか，自分の興味・関心，探らしたいテーマを見つけていきましょう。そのためには心理学の基礎知識や研究法が必須となります。特別研究は，文献の探し方，データ分析の行い方，論文

の書き方を中心に指導します。研究指導の前半は，心理学の研究法について習得し，テーマに関する論文の収集を行ない先行研究をまとめましょう。後半は，実験・調査等のデータ収集及び分析を行い論文を完成させます。

④特別研究の進め方

受講生の学修環境に応じて，面談やネットワークを使つての相談を1年次から開始します。夏季・冬期・春期休暇を利用して，面接指導を適時実施します。

- 1年次：研究テーマの決定。研究計画作成。研究方法の習得。関連文献収集。先行研究まとめ。
- 2年次：研究計画再検討。実験・調査研究スタート。ゼミ合宿（予定）。中間発表。データ分析。論文執筆（論文指導）。修士論文提出。

博士前期課程

3つのポリシー

Policy
01

ディプロマ・ポリシー
Diploma Policy

「現代社会の種々の活動領域で，高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独創的な学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的達成のために，博士前期課程においては，以下のような知見と能力の修得を単位修得および修士論文によって例証した者に学位を授与する。

国際情報専攻

- ・国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち，経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で，指導的かつ先端的な役割を担い，国際化・グローバル化の現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力。
- ・実務家においては，それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力，及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力。
- ・研究者にあつては，学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し，論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力。

文化情報専攻

- ・多文化多言語社会の中で，多様な価値を受容し，相互理解を深めながら，地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力。
- ・実務家においては，それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力，及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力。
- ・研究者にあつては，学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し，論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力。

人間科学専攻

- ・哲学，心理学，教育学，医療・安全学，スポーツ科学に亘る諸領域において，現代社会の根本的なニーズに対応し人間存在の基本問題について，十全の認識・洞察を持って，問題解決に取り組むことができる資質・能力。
- ・実務家においては，それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力，及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力。
- ・研究者にあつては，学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し，論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力。

上記の資質・能力を身に付けたかどうかについては，以下の学修成果により判断する。

- 1) 専攻科目について24単位以上の修得
- 2) 特別研究において必要な研究指導を受ける
- 3) 下記の項目からなる修士論文の審査の合格
 - ①研究目的，理論，研究方法，情報収集・処理の妥当性
 - ②論旨の明確性および独創性

- ③論文の統合性および論証の一貫性
 - ④研究成果の有意義性
 - ⑤構成，形式，表現，表記の適切性
- 4) 最終試験に合格

Policy
02

カリキュラム・ポリシー
Curriculum Policy

「現代社会の種々の活動領域で，高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独創的な学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的達成に向け，各専攻において，次のような方針で教育課程を編成し，コースワーク重視の教育を行う。

国際情報専攻

- 1.初年次教育の必修科目（4単位）として国際情報論特講を設定し，以下の内容を実施する。
 - 1) e-learning による通信教育（在宅学習）
経営・経済及び国際（関係）・政治の各分野において基礎となる専門知識の習得が可能となる基本書を選定し，あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す，双方向型の学修を行う。学修成果については，最終レポートの完成度，作成過程における質問，レポートの改善状況，等により評価を行う。
 - 2) スクーリング（対面授業）
①経営・経済及び国際（関係）・政治の各分野において基礎となる専門知識の習得をさらに深めるために，アクティブラーニングや質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については，発表や発言などの参加度とスクーリング終了後に提出されるレポートにより評価を行う。
②質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の習得を目指し，質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については，発表や発言などの参加度，及び研究計画書（研究経過報告書）により評価を行う。
- 2.専門教育として，経営・経済の分野においては経済理論を中心とした科目群，グローバル経営戦略を中心とした科目群，ファミリービジネス論を中心とした科目群，国際（関係）・政治の分野においては国際情報論を中心とした科目群，現代政治論を中心とした科目群，をそれぞれ設定し，e-learning による通信教育（在宅学習）を実施する。
基本書を選定し，あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す，双方向型の学修を行う。学修成果については，最終レポートの完成度，作成過程における質問，レポートの改善状況，等により評価を行う。
なお，専攻科目の選定にあたっては，特別研究の指導教員が学生の希望を尊重したうえで履修指導を行う。
- 3.国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち，経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で，指導的かつ先端的な役割を担い，国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を習得するため，特別研究を必修科目として設定し，以下

の内容を実施する。

審査に合格する修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、マンツーマンの双方向型の学修を行う。学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

文化情報専攻

- 1.初年次教育の必修科目（4単位）として文化情報論特講を設定し、以下の内容を実施する。
 - 1) e-learning による通信教育（在宅学習）

文化研究及び言語教育研究の各分野において基礎となる専門知識の習得が可能となる基本書を選定し、あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型の学修を行う。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。
 - 2) スクーリング（対面授業）
 - ①文化研究及び言語教育研究の各分野において基礎となる専門知識の習得をさらに深めるために、アクティブラーニングや質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。

学修成果については、発表や発言などの参加度とスクーリング終了後に提出されるレポートにより評価を行う。
 - ②質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の習得を目指し、質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度、及び研究計画書（研究経過報告書）により評価を行う。
- 2.専門教育として、文化研究コースでは、比較文化関連科目、日本・東アジア圏文化関連科目、欧米圏文化関連科目群を設定し、比較文学を軸に文学や漫画など多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高める。言語教育コースでは、言語教育関連科目群、言語学関連科目群、日本語教育関連科目群、英語教育関連科目群を設定し、国境を越えて移動する人々の言語と文化の様相を理解し、支援する能力を向上させる。専門科目は、e-learning による通信教育（在宅学習）を通して実施する。学修は、選定された基本書に対してあらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型で進められる。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。
- 3.多文化多言語社会の中で、多様な価値を受容し、相互理解を深めながら、地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力を習得するため、特別研究を必修科目として設定し、以下の内容を実施する。

審査に合格する修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、ゼミ生同士の協働学修と教師と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

人間科学専攻

- 1.初年次教育の必修科目（4単位）として人間科学特講を設定し、以下の内容を実施する。
 - 1) e-learning による通信教育（在宅学習）

人間科学専攻の各分野において基礎となる専門知識の習得が可能となる基本書を選定し、あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型の学修を行う。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。
 - 2) スクーリング（対面授業）
 - ①人間科学専攻の各分野において基礎となる専門知識の習得をさらに深めるために、アクティブラーニングや質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度とスクーリング終了後に提出されるレポートにより評価を行う。
 - ②質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の習得を目指し、質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度、及び研究計画書（研究経過報告書）により評価を行う。
- 2.専門教育として、哲学コースでは、人間の生き方と社会のあり方を追求する知力を育成し、現代社会の問題や人間の根源・幸福について論考を進める。心理学コースでは、心理学について十全の知識・認識を基盤にして、現代社会の根本的な課題とニーズに対応した問題解決のための検証能力をもった人材を育成する。教育学コースでは、教育現場で諸問題に対応できる理論的裏付けを持った実践的な対処策を策定・実施できる人材を育成する。医療・安全コースでは、医療・福祉、産業保健、および生命科学に関わる分野、さらに数理モデルを応用した安全学に関する分野において、ヒトの健康の向上とリスク管理や安全教育のための支援システムを構築し、遂行できる人材を養成する。スポーツ科学コースでは、スポーツ科学理論を基盤に、スポーツの現代社会的問題を研究し、遂行できる人材を養成する。専門科目は、e-learning による通信教育（在宅学習）を通して実施する。学修は、選定された基本書に対してあらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型で進められる。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。
- 3.公共機関と私企業とを問わず様々な社会的活動領域において、現代の先端的なニーズに対応し、人間存在の基本問題について十分な知見を持って活躍できる資質・能力を習得するため、特別研究を必修科目として設定し、以下の内容を実施する。

審査に合格する修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、ゼミ生同士の協働学修と教師と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

Policy 03 アドミッション・ポリシー Admission Policy

通信制の独立大学院として、現代社会の種々の活動領域で仕事や研究に従事しながら、高度な専門性を身につけ、新しい道を切り拓らき、その分野をリードしていけるような人材を受け入れる。
受け入れに当たっては、以下の2つの観点から、本研究科での学術生活で求められる①知識・能力、②思考力・判断力・表現力、③主体的で協調的な態度について判断する。

- （1）論文試験により、各専攻分野について学士程度の知識をもち、提示された課題について所定の時間内に論理的に思考し、結論をどのようにするかを判断し、それらを文章として表現する、ことを求める。
 - （2）面接試験により、より専門的な知識の習得、理解力、判断力、問題解決能力、リーダーシップ力、コミュニケーション力、自律的研究遂行能力を身に付ける可能性があるかどうかについて、判定する。
- 上記の方針のもと、各専攻は次のような学生を歓迎する。

国際情報専攻

国際情勢の帰趨と世界と日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済・政治・行政・国際関係・言論等の分野で、指導的かつ先端的な役割を担う人材として、国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことを目指すもの。

文化情報専攻

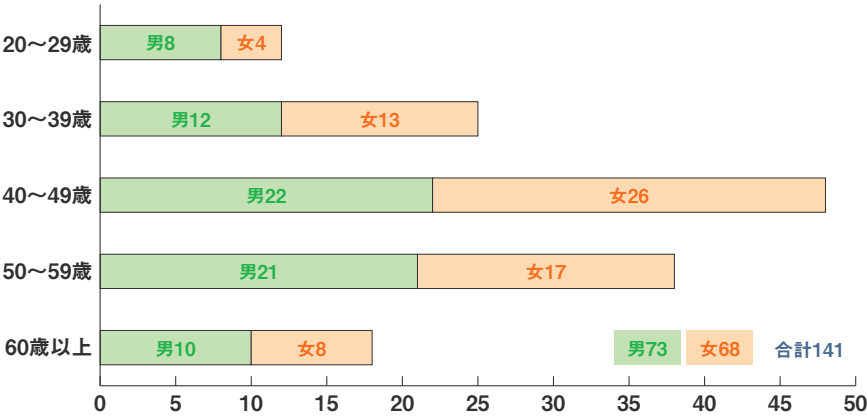
言語と文化の教育、文化翻訳、異文化間コミュニケーション等の領域において文化の受信・発信・媒介のエキスパートとして、より良いグローバル・コミュニティの創生に寄与することを目指すもの。

人間科学専攻

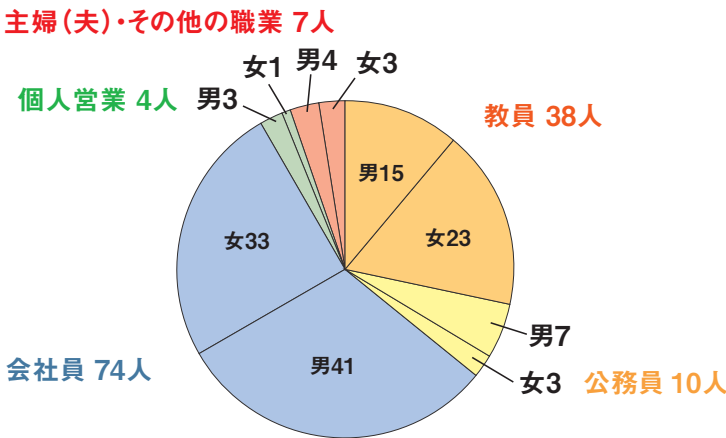
哲学、心理学、教育学、医療・安全学、スポーツ科学にいたる諸領域において、現代社会に内在する問題について論考し、問題解決に取り組むことを目指すもの。

学生データ

年齢層別学生数



職業別学生数



入試状況

専攻名		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
国際情報	受験者	26	18	26	17	19	28
	入学者	24	18	24	15	18	26
文化情報	受験者	19	13	28	15	13	16
	入学者	18	13	24	15	11	15
人間科学	受験者	35	31	31	25	29	29
	入学者	34	31	27	25	28	28
合計	受験者	80	62	85	57	61	73
	入学者	76	62	75	55	57	69

※募集定員は各専攻30名 合計90名

地域別学生数（国外）



地域別学生数（国外）



総合社会情報研究科 修了者数

専攻名	H24年度 修了者数 (修了率)	H25年度 修了者数 (修了率)	H26年度 修了者数 (修了率)	H27年度 修了者数 (修了率)	H28年度 修了者数 (修了率)	H29年度 修了者数 (修了率)
国際情報	13(100%)	11(91.7%)	21(87.5%)	17(88.9%)	23(83.3%)	8(57.1%)
文化情報	6(75.0%)	13(92.9%)	13(72.2%)	7(53.8%)	21(75.0%)	5(55.6%)
人間科学	17(77.2%)	15(75.0%)	29(85.3%)	24(77.4%)	24(74.1%)	19(76.0%)
合計	36(83.7%)	39(84.8%)	63(82.9%)	48(75.8%)	68(77.3%)	32(66.7%)

平成30年5月1日現在